

4 土坑墓

調査2区の北部において238基の土坑墓を確認した。土坑墓と判断した根拠は、出土遺物、形態、土坑墓全体の配列等からである。

遺物が出土したのは第62号土坑墓で、琥珀・翡翠製垂飾が出土している。これらは北側の底面から出土している状況から、副葬品の可能性が高い。また底面近くから石鏡が出土している土坑墓が5基あり、これも副葬品の可能性が考えられる。

土坑墓の形態は、ほとんどが楕円形を呈することに特徴がある。その中でも壟溝が巡る土坑墓が7基検出され、特異な例と考えられる。壟溝の性格については不明である。

土坑墓全体の配列を見ると、墓域の中央部にある空白部を中心に、放射状に配列されていることが確認された。調査1区においては、攪乱が多く配列の様子は不明瞭であるが、調査2区同様放射状に配列されていたことが推定できる。そのうち38基だけは、他の土坑墓と主軸を異にしている。

壟溝を有する土坑墓や主軸を異にする土坑墓は特異な例であり、壟溝の有無や主軸の違いが時期差なのか、被葬者の性格に起因するのかなどは不明である。

以上のことから、遺物が出土した土坑墓、もしくは壟溝を有する土坑墓を取り上げ、それぞれの土坑墓の特徴と出土遺物について解説を加え、それ以外のものは一覧表で記載した。

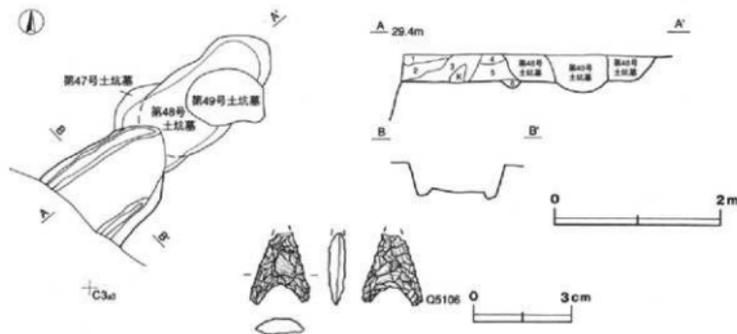
第46号土坑墓（第490図）

位置 調査2区の北部、B3β区。土坑墓群域に位置する。

重複関係 北東側で第47号土坑墓を掘り込み、第48号土坑墓に北東壁の一部が掘り込まれている。本跡の南東側は現代の攪乱により破壊されている。

規模と形状 平面形は楕円形と推定され、規模は不明であるが、現状では長径1.53m、短径1.27m程度である。推定される長径方向はN-50°-Eである。底面はほぼ平坦で、深さは36cmである。壁は外傾及び直立する。東壁を除いて、壁に沿って壟溝が巡っている。壟溝の断面形はU字状を呈し、幅は11~21cm、深さは底面から8~10cmである。南東側は現代の攪乱により破壊されているため、壟溝が巡っていたか不明である。

覆土 6層に分層される。全体的には含有物は同質である。暗褐色を基調とする土層で、粘性や締まりの程度は普通である。堆積状況が不自然であることから、人為堆積と考えられる。



第490図 第46号土坑墓・出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量 | 6 暗褐色 | ローム粒子少量 |

遺物出土状況 石鏝1点が覆土から出土している。Q5106は石鏝で先端部を一部欠損しているが、チャート製で精製品である。

所見 本跡は、他の多くの土坑墓が壁溝を伴わないのに対して、一部途切れる馬蹄形の壁溝を有する点に特徴がある。特筆されるのは、Q5106のチャート製の石鏝である。他の土坑墓からも底面等から出土していることから、この石鏝は副葬品と考えられる。時期は、出土土器がないために断定することはできないが、土坑墓群全体の様相などから縄文時代中期後葉（加曾利 E I ~ E II 式期）と考えられる。

第46号土坑墓出土遺物観察表（第490図）

番号	器種	計測値			材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)				
Q5106	石鏝	(2.2)	1.8	0.5	(1.1)	チャート	基部中央が大きく潰入。磨研痕。一部欠損。	覆土 P L 59

第55号土坑墓（第491図）

位置 調査2区の北部、B34区。土坑墓群域に位置する。

確認状況 多くの土坑墓が重複する中で、単独かつ良好な遺存状況である。

規模と形状 平面形は長径1.96m、短径1.10m程度の楕円形である。長径方向はN-9°-Eである。底面はほぼ平坦で、深さは54cmである。壁は外傾及び直立する。

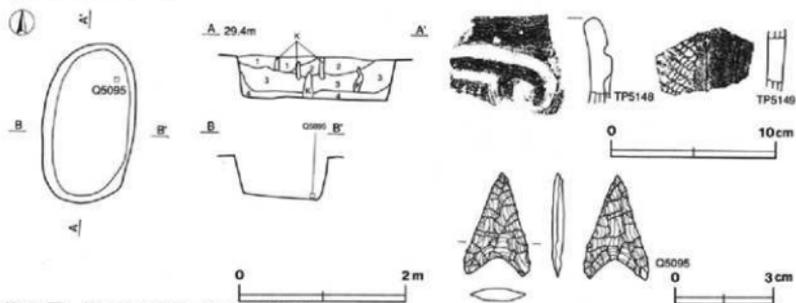
覆土 4層に分類される。全体的に含有物は同質である。色調から大きく二つに分けられる。また粘性や締まりの程度は普通である。堆積状況はレンズ状を呈しているが、縄文土器片などがほとんど出土していないため、短期間に埋め戻された可能性が高く、人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量 | 3 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 縄文土器片10点、石鏝1点が出土している。Q5095の石鏝は完形で、北東壁寄りの底面から出土し、瑪瑙製で精製品である。

所見 特筆されるのは、Q5095の瑪瑙製の石鏝である。出土状況から副葬品と考えられる。時期は、出土土器が少ないために断定することはできないが、土坑墓群全体の様相などから縄文時代中期後葉（加曾利 E I ~ E II 式期）と考えられる。



第491図 第55号土坑墓・出土遺物実測図

第55号十坑墓出土遺物観察表 (第491回)

番号	種別	器種	口径(cm)	口径	底径(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成色調	出土位置	備考	
TP5148	縄文土器	深鉢			(5.2)		1: 埴部は隆帯により刻文を拵す。R.L.の半割縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	第61号土坑墓	覆	ニ
TP5149	縄文土器	深鉢			(3.8)		明部は沈線による懸垂文物を磨り消している。上京の半割縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	にぶい表層	覆	上

番号	器種	計量値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q5095	石 瓶	3.1	2.0	0.4	1.6	珪 藻	基部中央が大きく湾入。器底深縁入念。	床 面	P.L.59

第62号土坑墓 (第492・493回)

位置 調査2区の北部、B3g4区。土坑墓群の中央部付近に位置する。

重複関係 北側で第71号土坑墓、北東側で第72号土坑墓を掘り込んでいる。南側で第61・242号土坑墓、南西側で第73号土坑墓と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 平面形は長径1.30m、短径0.64m程度の不整形円形と推定される。長径方向はN10°Eである。底面はほぼ平坦で、深さは56cmである。壁は直立する。

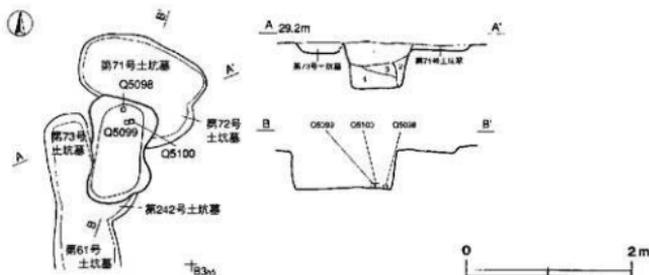
層土 4層に分層される。全体的に含有物はほぼ可質である。粘性や締まりの程度は普通である。最下層の第4層がローム粒子を多量に含んでいることや、第2・3層の堆積状況がやや不自然であることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

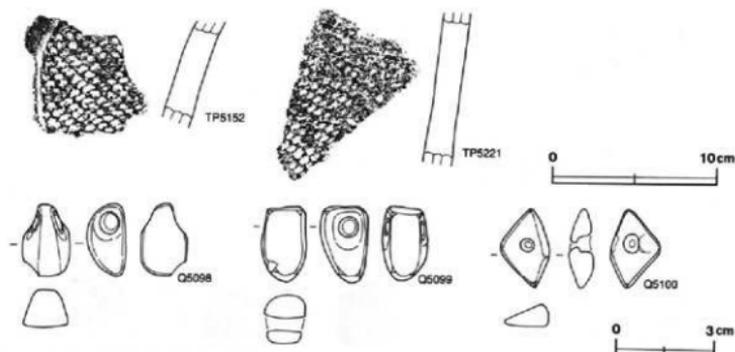
- | | | | |
|-------|------------------|-------|-----------|
| 1 粘褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子少量 | 3 赤褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 粘褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子少量 | 4 褐色 | ロームブロック多量 |

遺物出土状況 縄文土器片11点、琥珀製垂飾2点、翡翠製垂飾1点が覆土中及び底面から出土している。Q5098・Q5099の琥珀製垂飾とQ5100の翡翠製垂飾は、完形かつ複製品であり、北壁寄りの底面直上からまきまき出土している。TP5152・TP5221は同一個体と考えられる。

所見 わずかな出土遺物の中で特筆されるのは、Q5098・Q5099・Q5100の琥珀・翡翠製垂飾である。これらは、出土状況から被葬者が身につけていた装飾品の可能性が高く、また被葬者を特徴づける威信財と考えられる。このことは、調査2区の北部で、放射状に配列されている土坑の一帯を、土坑墓と判断した根拠の一つでもあり、238基を数える土坑墓の中で、唯一の存在である。時期は、出土土器が少ないために断定することはできないが、土坑墓群全体の様相などから縄文時代中期後葉(加曾利EⅢ式期)と考えられる。



第492回 第62号土坑墓実測図



第493図 第62号土坑墓出土遺物実測図

第62号土坑墓出土遺物観察表 (第493図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP5152	縄文土器	深鉢	—	(6.5)	—	胴部は沈線による懸垂文周を磨り消している。L Rの単筋縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい黄橙	覆土	TP5221と同一
TP5221	縄文土器	深鉢	—	(10.2)	—	胴部にはL Rの単筋縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい黄橙	覆土	TP5152と同一

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q5098	垂飾	2.2	1.4	1.2	2.1	琥珀	断面形は台形を呈し、裏面は扁平、両面から穿孔。	底面	P L 58
Q5099	垂飾	2.3	1.4	1.4	3.3	琥珀	断面形は楕円形を呈す。両面からの穿孔。	底面	P L 58
Q5100	垂飾	2.4	2.5	0.8	2.9	翡翠	断面は扁平な三角形を呈す。両面からの穿孔。	底面	P L 58

第70号土坑墓 (第494図)

位置 調査2区の北部、B34区。土坑墓群域に位置する。

重複関係 第69号土坑墓に北壁の一部を掘り込まれている。

規模と形状 平面形は長径1.92m、短径1.24m程度の楕円形と推定される。長径方向はN-33°-Eである。底面はほぼ平坦で、深さは62cmである。壁はほぼ直立し、西壁の一部で内傾する。北壁を除いて、壁に沿って壁溝が巡っている。壁溝の断面形はU字状を呈し、幅は11~18cm、深さは底面から6cmである。

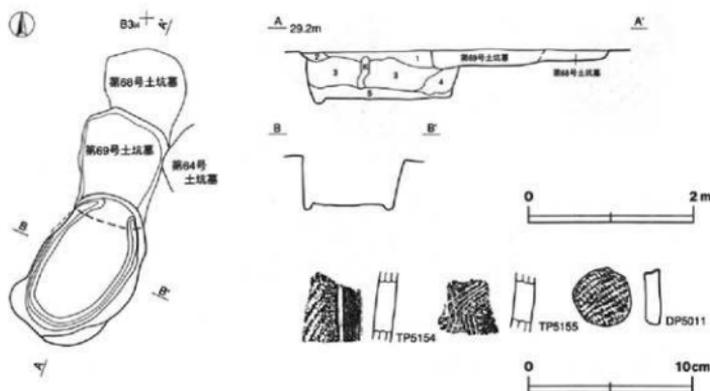
覆土 5層に分層される。全体的に含有物は同質で、色調から大きく二つに分けられる。また、粘性や締まりの程度は普通である。第3層を主体に埋め戻されたような堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック微量 | 4 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 5 褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片11点、土器片片盤1点が覆土から出土している。

所見 本跡は、他の多くの土坑墓が壁溝を伴わないのに対して、一部途切れる馬蹄形の壁溝を有する点に特徴がある。また西壁の一部が内傾していることから、本来の形状は袋状を呈していた可能性も考えられる。時期は、出土土器や土坑墓群全体の様相などから縄文時代中期後葉(加曾利EⅡ時期)と考えられる。



第494図 第70号土坑墓・出土遺物実測図

第70号土坑墓出土遺物観察表 (第494図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP5154	縄文土器	深鉢	—	(4.4)	—	胴部は2条の沈線による懸垂文間を帯り滑している。R Lの準節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	橙	覆土	
TP5155	縄文土器	深鉢	—	(3.5)	—	胴部は筒状工具による波状沈線文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	橙	覆土	

番号	器種	計測値				胎土・色調	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
DP5011	土器片断	3.6	3.6	0.9	13.6	長石・石英に多い黄褐色	ほぼ円形。胴縁部は剝削後、研磨。	覆土	

第92号土坑墓 (第495図)

位置 調査2区の北部, B3j区。土坑墓群域に位置する。

重複関係 北西側で第91号土坑墓と重複しているが、掘点により新旧関係は不明である。

規模と形状 平面形は長径1.82m, 短径1.17m程度の楕円形である。長径方向はN-7°-Eである。底面はほぼ平坦で、深さは42cmである。壁はほぼ直立する。壁に沿って壁溝が全周している。壁溝の断面形はU字状を呈し、幅は11~17cm, 深さは底面から4~8cmである。

覆土 5層に分層される。全体的に含有物は同質で、暗褐色を基調とする土層である。第3層の堆積状況が不自然であることから、人為堆積と考えられる。

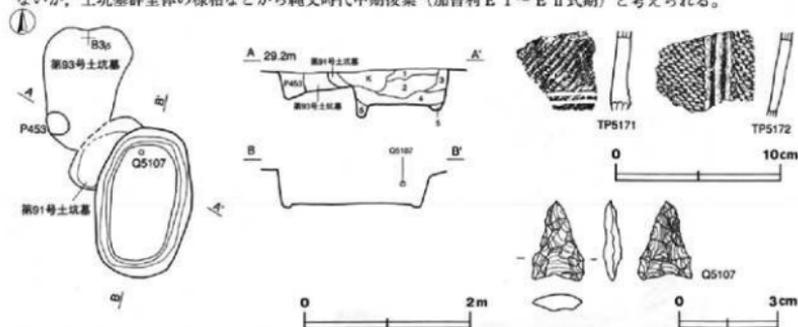
土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片16点, 石鏝1点が覆土から出土している。Q5107の石鏝はチャート製で完形品であり, 北壁寄りの覆土中層から出土している。

所見 本跡は, 他の多くの土坑墓が壁溝を伴わないのに対して, 全周する壁溝を有する点に特徴がある。わずかな出土遺物の中で特筆されるのは, Q5107のチャート製の石鏝である。底面からの出土ではないが, 第55号土坑墓から出土した石鏝と同様, 副葬品と考えられる。時期は, 出土土器が少ないために断定することはでき

ないが、土坑墓群全体の様相などから縄文時代中期後葉（加曾利EⅠ～EⅡ式期）と考えられる。



第495図 第92号土坑墓・出土遺物実測図

第92号土坑墓出土遺物観察表（第495図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP5171	縄文土器	深鉢	—	(4.8)	—	胴部に2条の沈線が通る。R Lの単筋縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	にぶい黒	覆土	土
TP5172	縄文土器	深鉢	—	(5.3)	—	胴部には3条の沈線による懸垂文周を磨り出す。L R Lの複筋縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	にぶい黄褐	覆土	土

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q5107	石 砥	2.4	1.5	0.5	1.4	チャート	基部中央の溝入が小さい。	覆土中層	P L 59

第113号土坑墓（第496図）

位置 調査2区の北部、C3a4区。土坑墓群域に位置する。

重複関係 北側に第114号土坑墓を掘り込み、第112号土坑墓に西壁の上位を掘り込まれている。

規模と形状 平面形は長径2.15m、短径1.18m程度の楕円形と推定される。長径方向はN-1°-Eである。底面はほぼ平坦で、深さは58cmである。壁は直立し、南壁側で外傾する。西壁の一部を除いて、壁に沿って壁溝が巡っている。壁溝の断面形はおおむねU字状を呈し、幅は12～20cm、深さは底面から6～10cmである。

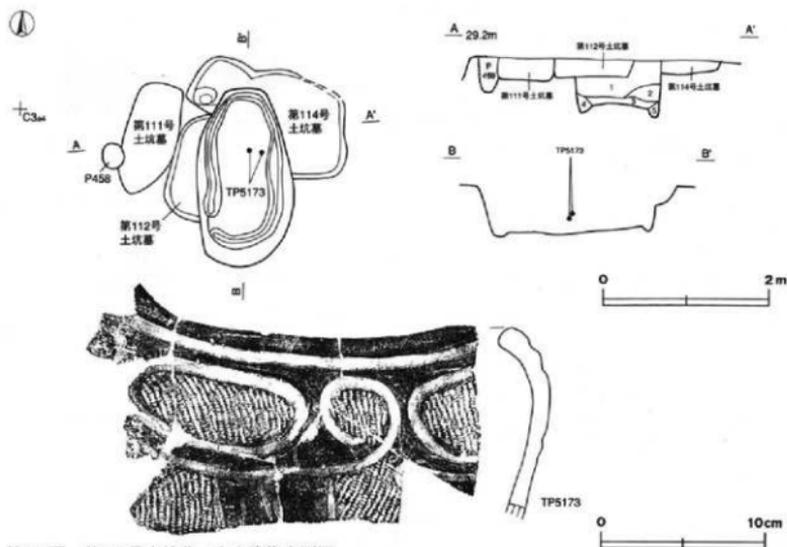
覆土 5層に分層される。全体的に含有物は同質である。黒褐色を基調とする土層で、粘性や締まりの程度は普通である。第1層を主体に埋め戻されたような堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量 | 4 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 極暗褐色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片41点が覆土中層から出土している。TP5173は深鉢片が覆土中層から出土している。

所見 本跡は、他の多くの土坑墓が壁溝を伴わないのに対して、一部途切れる壁溝を有する点に特徴がある。ただし、第46号土坑墓や第70号土坑墓のように馬蹄形を呈するのではなく、壁溝の途切れ方も幅12cmと狭い。その他の土坑墓と比較して出土土器が多く、縄文土器の大形破片が北東部の覆土中層から出土している。これらの遺物の性格は不明である。時期は、出土遺物や土坑墓群全体の様相などから縄文時代中期後葉（加曾利EⅡ式期）と考えられる。



第496図 第113号土坑墓・出土遺物実測図

第113号土坑墓出土遺物観察表(第496図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP5173	縄文土器	深鉢	—	(14.2)	—	口縁部は沈線で文様露出。側部は沈線による懸垂文間を磨り滑す。R Lの単節縄文。	長石・石英 普通		にぶい橙	覆土中層	

第125号土坑墓(第497図)

位置 調査2区の北部、C3a7区。土坑墓群域に位置する。

重複関係 南側で第124号土坑墓を掘り込んでいる。北側で第173号土坑墓、西側で第202号土坑墓と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 平面形は長径2.76m、短径1.23m程度の楕円形と推定される。長径方向はN-69°-Wである。底面はほぼ平坦で、深さは46cmである。壁は直立する。

覆土 7層に分層される。全体的に含有物は同質で、暗褐色を基調とする粘性及び締まりの程度も普通の土層である。ただし、第7層は焼土粒子を微量に含んでいる。各層が埋め戻されたような堆積状況を示すことから、人為堆積と考えられる。

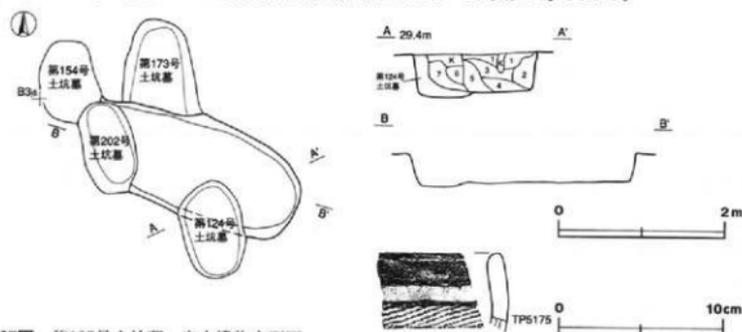
土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片6点が、覆土から出土している。

所見 本跡は、放射状に配列されている土坑墓群の中で、長径方向のN-69°-Wが示すとおり、大きく主軸方向を異にする点に特徴がある。本跡と同様に主軸方向を異にする土坑墓は38基を数える。こうした土坑墓の主

軸方向の違いが、時期差なのか被葬者の性格に起因するのかなど、詳細は不明である。なお出土土器はわずかで、埋葬にかかわる遺物などは確認されていない。時期は、出土土器が少ないために断定することはできないが、土坑墓群全体の様相などから縄文時代中期後葉（加曾利 E II～III 式期）と考えられる。



第497図 第125号土坑墓・出土遺物実測図
第125号土坑墓出土遺物観察表（第497図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP5175	縄文土器	深鉢	—	(4.8)	—	口縁部に沈線が高る。地文は L R の早稲縄文で、横方向に施文。	長石・石英	普通	にぶい褐	覆土	

第193号土坑墓（第498図）

位置 調査2区の北部、B3j5区。土坑墓群域に位置する。

重複関係 南側で第192号土坑墓を掘り込んでいる。

規模と形状 平面形は長径1.78m、短径0.95m程度の楕円形である。長径方向はN-3'-Wである。底面はほぼ平坦で、深さは38cmである。壁は直立する。壁に沿って壁溝が全周している。壁溝の断面形はU字状を呈し、幅は10～12cm、深さは底面から9～21cmである。

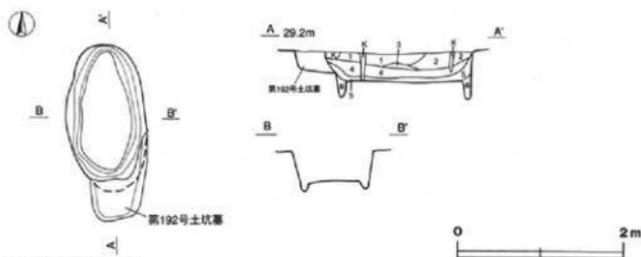
覆土 6層に分層される。全体的に含有物は同質で、炭化物・粒子を含んだ暗褐色を基調とする土層である。粘性や締まりの程度は普通である。第5層は多量のローム粒子と微量の鹿沼バミスを含むなど、やや土質が異なる。堆積状況はレンズ状を呈しているが、土器がほとんど出土していないため、短期間に埋め戻された可能性が高く、人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|----------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 | 4 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子少量 | 5 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量、鹿沼バミス粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 縄文土器片2点が覆土から出土している。

所見 本跡は、他の多くの土坑墓が壁溝を伴わないのに対して、全周する壁溝を有する点に特徴がある。時期は、出土土器が少ないために断定することはできないが、土坑墓群全体の様相などから縄文時代中期後葉（加曾利 E I～E II 式期）と考えられる。



第498図 第193号土坑墓実測図

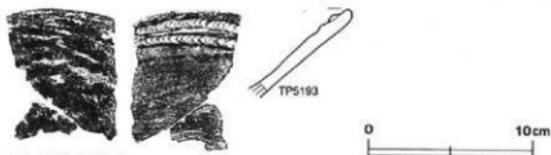
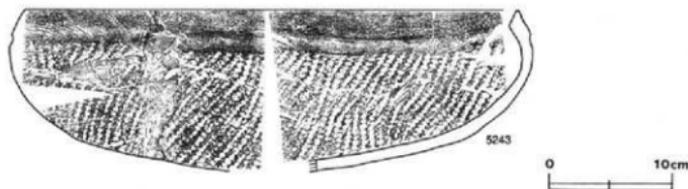
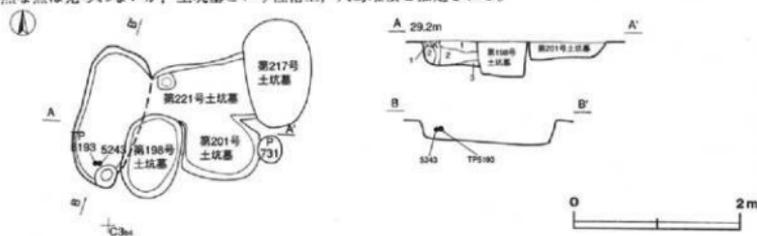
第197号土坑墓 (第499図)

位置 調査2区の北部, C3 a3区。土坑墓群域に位置する。

重複関係 第198号土坑墓に東壁の南側を掘り込まれている。北側で第221号土坑墓と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 平面形は長径1.64m, 短径0.76m程度の楕円形と推定される。長径方向はN-16°-Eである。底面はほぼ平坦で、深さは30cmである。壁は直立する。

覆土 3層に分層される。最下層の第3層はロームを多量に含んだ締まりの強い土層である。堆積状況に不自然な点は見られないが、土坑墓という性格上、人為堆積と推定される。



第499図 第197号土坑墓・出土遺物実測図

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

- 3 灰 色 ロームブロック多量

遺物出土状況 縄文土器片16点が覆土から出土している。5243は浅鉢で、葉巻寄りの覆土中層からつぶれた状態で出土している。

所見 出土した5243の浅鉢の性格は不明である。時期は、出土土器や土坑墓群全体の様相などから縄文時代中期後葉（加曽利EⅡ式期）と考えられる。

第197号土坑墓出土遺物観察表（第499図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	土層位置	備考
P5243	縄文土器	浅鉢	40.0	(13.3)	—	口縁部以下は無文。胴部は灰土の単節縄文を縦方向に織文。	灰石・石英・赤色粒子	普通	焼	覆土中層	
TP5193	縄文土器	浅鉢	—	(5.4)	—	口縁部内側にベン先状工具による放射状織文が深る。他は無文。	灰石・石英・雲母	普通	不自然な	覆土中層	

第229号土坑墓（第500・501図）

位置 調査2区の北部、C3d5区。土坑墓群域に位置する。

重複関係 東側で第230号土坑墓を掘り込み、北西側で第5号土器埋設土坑に掘り込まれている。また、南壁で第471号ピットと重複しているが、新旧関係は不明である。北壁上位は現代の掘削により破壊されている。

規模と形状 平面形は長径2.35m、短径1.26m程度の楕円形と推定される。長径方向はN-55°-Wである。底面はほぼ平坦で、深さは23cmである。壁は外傾する。ピットは2か所で、深さは、P1が27cm、P2が23cmである。

覆土 4層に分層される。全体的に含有物は同質である。黒褐色を基調とする土層で、粘性や締まりの程度は普通である。不自然な堆積状況から、人為堆積と考えられる。

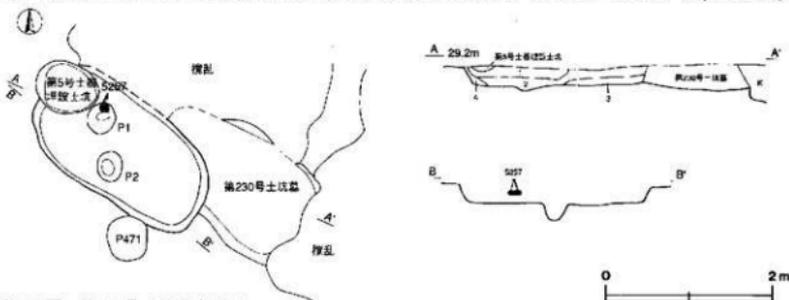
土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
2 黒褐色 ロームブロック微量

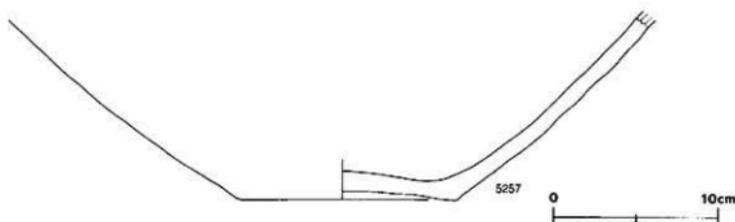
- 3 黒褐色 ロームブロック少量
4 暗褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 縄文土器片33点が覆土中層から出土している。5257は浅鉢で、中央部の覆土中層から出土している。

所見 本跡は、放射状に配列されている土坑墓群の中で、長径方向のN-55°-Wが示すとおり、大きく主軸方向を異にする点に特徴がある。その他の土坑墓と比較して出土遺物は多いが、それらの遺物の性格は不明である。時期は、出土土器や土坑墓群全体の様相などから縄文時代中期中葉（阿玉台Ⅲ・Ⅳ式期）と考えられる。



第500図 第229号土坑墓実測図



第501図 第229号土坑墓出土遺物実測図

第229号土坑墓出土遺物観察表 (第501図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5257	縄文土器	浅鉢	—	(12.0)	12.8	器面は無文で磨光。	灰石・石英・雲母・赤色砂子	普通	濃い褐色	覆土中層	

表5 土坑墓一覧表

土坑墓番号	位置	長短方向	平面形	規模		傾面	近角	壁溝	覆土	主な出土遺物	重複関係 (旧→新)	発掘番号
				長径(m)×短径(m)	高さ(cm)							
5	B3f4	N-70°-W	楕円形	1.67 × 1.14	18	緩斜	平坦	人為				SK2001
6	B3g3	N-77°-W	楕円形	1.62 × 0.82	38	外傾	平坦	人為		P350→本跡		SK2002
7	B3f2	N-54°-W	楕円形	1.76 × 0.93	39	外傾	平坦	人為				SK2004
8	B3h3	N-4°-E	楕円形	1.53 × 0.88	24	緩斜	平坦	人為				SK2007
9	B3h2	N-70°-W	不整形円形	1.79 × 1.01	29	緩斜	平坦	人為				SK2009
10	B3i3	N-50°-E	楕円形	1.27 × 0.88	27	緩斜	平坦	人為	割片			SK2010
11	B3j3	N-23°-E	不整形円形	1.85 × 1.43	43	外傾	平坦	人為		第12-13号土坑墓・本跡		SK2014
12	B3j3	N-51°-E	楕円形	(1.19) × 0.71	35	緩斜	平坦	人為		第1号土坑墓→第8号土坑墓		SK2015
13	B3i3	N-38°-E	不整形円形	1.74 × 1.38	18	外傾	凹凸	人為		本跡→第12号土坑墓		SK2016
14	B3i2	N-40°-E	楕円形	1.43 × 1.14	43	外傾	凹凸	人為		第15号土坑墓→本跡		SK2017
15	B3i2	N-47°-E	楕円形	[1.28] × 0.93	38	外傾	平坦	人為		本跡・第14号土坑墓		SK2018
16	B3h2	N-86°-W	不整形円形	2.28 × 0.99	48	外傾	凹凸	人為		本跡→第25号土坑墓		SK2019
17	B3h2	N-62°-W	楕円形	1.57 × 1.03	36	直立	平坦	人為		本跡→第28号土坑墓		SK2022
18	B3h1	N-76°-E	楕円形	1.09 × 0.74	43	直立	凹凸	人為		本跡・第10号土坑墓		SK2023
19	B3h1	N-81°-E	楕円形	1.36 × 0.69	46	外傾	凹凸	人為		第18号土坑墓→本跡		SK2024
20	B3h1	N-85°-E	楕円形	(1.02) × 0.69	21	外傾	平坦	人為		第1号土坑墓→第8号土坑墓		SK2025
21	B3h1	N-85°-E	楕円形	(0.96) × 0.61	12	緩斜	凹凸	人為	土器片円器	本跡→第20号土坑墓		SK2026
22	H3j2	N-54°-E	楕円形	[1.56 × 0.61]	42	直立	頂状					SK2030
21	B3j3	N-33°-E	楕円形	(1.33) × [0.65]	31	外傾	平坦					SK2031
24	B3i2	N-42°-E	楕円形	[1.96] × 1.23	52	外傾	頂状	人為	割片			SK2034
25	B3h1	N-50°-E	楕円形	[1.45] × 0.60	28	外傾	頂状	人為		第16号土坑墓→本跡		SK2041
26	H3i1	N-57°-E	楕円形	(1.95) × [1.45]	41	外傾	平坦					SK2046
27	B3i2	N-47°-E	楕円形	[1.52 × 0.96]	41	外傾	頂状					SK2047
28	B3h2	N-78°-W	楕円形	[1.23 × 0.95]	28	緩斜	平坦	人為		本跡→第17号土坑墓		SK2068
29	B3j2	不	引	不明	36	外傾	平坦					SK2071
30	B3h1	N-48°-W	楕円形	(0.65) × 0.82	36	直立	平坦	人為		第20号土坑墓→本跡		SK2079
31	C2g8	N-76°-E	楕円形	2.02 × 0.96	39	外傾	平坦	人為	12号金剛	SK1173・SK152→本跡		SK2246
32	C3c4	N-46°-W	楕円形	1.79 × 1.27	21	外傾	平坦	人為				SK2350
33	C3c4	N-28°-W	楕円形	1.88 × 1.02	38	外傾	平坦					SK2364

上坑编号	位置	走向方向	平面形	规格		壁面	底面	壁 梁	覆土	主心出土器物	备注四修 (日—款)	发掘号
				长径(m)×宽径(m)	深(m)							
34	C 3 j1	N-60°-E	梯形形	1.29 × 0.80	24	倾斜	平坦		人为			SK2386
35	C 3 h3	N-97°-W	梯形形	1.62 × 0.99	17	倾斜	平坦		人为			SK2400
36	C 3 d5	N-83°-E	梯形形	2.38 × 1.33	28	倾斜	平坦		人为		第37号土坑墓·本路	SK2401
37	C 3 d4	N-77°-E	梯形形	[1.55] × 1.02	20	倾斜	平坦		人为		本路—第36号土坑墓	SK2402
38	C 2 j4	N-36°-W	梯形形	2.03 × 1.12	33	倾斜	平坦		人为			SK2436
39	B 3 j3	N-37°-E	梯形形	[1.52 × 1.10]	42	外倾	平坦		人为		第40号土坑墓—本路	SK2438
40	B 3 j3	N-34°-E	梯形形	[1.55 × 1.22]	33	倾斜	平坦		人为		本路—第39号土坑墓	SK2439
41	C 3 a3	N-20°-E	梯形形	[1.28 × 0.92]	36	不明	平坦		人为			SK2444
42	C 3 a3	N-10°-E	梯形形	[1.32 × 0.95]	47	不明	平坦		人为		第41号土坑墓—本路	SK2445
43	C 3 a3	N-10°-E	梯形形	1.07 × 0.82	32	外倾	平坦		人为		第42号土坑墓—本路	SK2446
44	C 3 a3	N-45°-E	梯形形	[1.72] × 0.97	38	外倾	平坦		人为			SK2447
45	B 3 j3	不明	不明	不明	25	外倾	平坦		人为			SK2448
46	B 3 j3	N-50°-E	梯形形	[1.53] × 1.27	36	外倾	平坦	绿漆金棺	人为	石盖	第43号土坑墓—本路	SK2449
47	B 3 j3	N-50°-E	梯形形	[1.05] × 1.07	31	不明	不明					SK2450
48	B 3 j3	N-50°-E	梯形形	[1.85] × 0.92	30	倾斜	平坦		人为		第44号土坑墓—本路	SK2451
49	B 3 j3	N-85°-E	梯形形	0.95 × 0.68	47	不明	平坦		人为		第48号土坑墓—本路	SK2452
50	B 3 j3	N-40°-E	梯形形	0.58 × 0.48	17	倾斜	平坦		人为		第51号土坑墓—本路	SK2453
51	B 3 j3	N-40°-E	梯形形	1.18 × 0.78	19	倾斜	平坦		人为		本路—第50号土坑墓	SK2454
52	B 3 j3	N-45°-E	梯形形	[1.03 × 0.92]	34	外倾	平坦		人为			SK2455A
53	B 3 j3	N-30°-E	梯形形	[1.55] × 0.98	32	直立	平坦		人为		第66号土坑墓—本路	SK2455B
54	B 3 j3	N-25°-E	梯形形	1.23 × 0.57	39	外倾	平坦		人为		第40号土坑墓—本路	SK2457
55	B 3 i4	N-9°-E	梯形形	0.96 × 1.10	54	外倾	平坦		人为	深坑, 石盖		SK2466
56	B 3 j3	N-50°-E	梯形形	[0.82] × 0.35	24	倾斜	平坦		人为		本路—第57号土坑墓	SK2472
57	B 3 j3	N-50°-E	梯形形	0.65 × 0.41	25	倾斜	平坦		人为		第56号土坑墓—本路	SK2473
58	B 3 j3	N-31°-E	梯形形	[1.05] × 0.51	不明	不明	不明					SK2474
59	B 3 h4	N-3°-W	梯形形	[1.92] × 0.70	16	外倾	平坦		人为			SK2475
60	B 3 g4	N-76°-W	梯形形	[0.70] × 0.60	25	倾斜	平坦		人为		第67号土坑墓—本路	SK2476
61	B 3 g4	N-9°-W	梯形形	[1.25] × 0.80	17	外倾	平坦		人为			SK2477
62	B 3 g4	N-10°-E	不规则形	1.30 × 0.64	56	直立	平坦		人为	深坑, 重坑	第71号土坑墓—本路	SK2478
63	B 3 i3	N-16°-E	不规则形	1.60 × 0.78	20	外倾	平坦		人为			SK2480
64	B 3 i5	N-18°-W	不规则形	[1.76] × 1.24	26	倾斜	平坦		人为			SK2482
65	B 3 j5	N-52°-E	梯形形	1.88 × 1.16	34	外倾	平坦		人为			SK2483
66	B 3 i3	N-18°-E	梯形形	1.44 × 0.75	49	外倾	平坦		人为		本路—第53号土坑墓	SK2484
67	B 3 g4	N-44°-E	梯形形	1.55 × 0.95	40	外倾	平坦		人为		本路—第60号土坑墓	SK2485
68	B 3 i5	N-32°-W	梯形形	[1.20] × 0.98	12	倾斜	平坦		人为			SK2493
69	B 3 i4	N-19°-E	梯形形	[1.30] × 1.02	21	不明	平坦		人为		第70号土坑墓—本路	SK2494
70	B 3 i4	N-33°-E	梯形形	[1.92] × 1.24	62	直立	平坦	绿漆金棺	人为	深坑, 重坑	本路—第69号土坑墓	SK2495
71	B 3 g4	N-72°-W	梯形形	1.55 × 0.85	10	外倾	平坦		人为	深坑, 石盖	本路—第62号土坑墓	SK2496A
72	B 3 g4	N-77°-W	梯形形	[1.20 × 0.80]	不明	不明	不明					SK2496B
73	B 3 g4	N-10°-W	梯形形	[1.13] × 0.55	13	倾斜	平坦		人为	不明		SK2497
74	B 3 i6	N-75°-E	梯形形	[1.33] × 0.67	17	倾斜	平坦		人为		本路—第75号土坑墓	SK2515
75	B 3 i6	N-20°-W	梯形形	1.51 × 0.79	25	外倾	平坦		人为		第74号土坑墓—本路	SK2516
76	B 3 h6	N-0°	梯形形	1.95 × 1.12	50	直立	平坦		人为		本路—第77号土坑墓	SK2517
77	B 3 h5	N-0°	梯形形	[2.56 × 1.12]	45	外倾	平坦		人为		第76号土坑墓—本路	SK2518
78	B 3 j5	N-4°-E	梯形形	[1.80] × 1.45	35	直立	平坦		人为		本路—第79号土坑墓	SK2520
79	B 3 i5	N-12°-W	梯形形	[1.40] × 0.90	37	外倾	平坦		人为		第78号土坑墓—本路	SK2521

十次编号	位 置	方位方向	平面形	基 礎		壁面	高 度	壁 溝	覆 土	主 次 出 入 處 所	最 近 関 係 (北一南)	免 課 備 号
				長(m)×短(m)	深さ(cm)							
172	C 3 47	N-21°-W	楕円形	0.75 × [0.63]	不明	不明	不明	—	—	—	—	SK2646
173	B 3 37	N-0°	楕円形	[1.56 × 0.90]	44	外傾	平垣	—	—	—	—	SK2647
174	C 3 47	N-13°-E	楕円形	[1.50] × 0.68	不明	不明	不明	—	—	—	—	SK2648
175	C 3 48	N 87°-W	楕円形	2.06 × 1.18	46	外傾	平垣	—	—	—	—	SK2649
176	C 3 48	N-21°-W	楕円形	2.00 × 1.68	40	緩斜	平垣	—	—	—	—	SK2650
177	C 3 48	N-69°-E	楕円形	[1.37] × [1.03]	19	外傾	平垣	—	—	—	—	SK2651
178	C 3 48	N-33°-W	楕円形	1.90 × 1.18	20	外傾	平垣	—	—	—	—	SK2652
179	C 3 49	N-20°-E	楕円形	0.86 × 0.50	64	外傾	平垣	—	—	—	—	SK2653
180	B 3 36	N-83°-W	楕円形	1.95 × [1.20]	不明	不明	不明	—	—	—	—	SK2655
181	C 3 48	N-18°-E	楕円形	[0.75 × 0.61]	30	外傾	平垣	—	—	—	—	SK2659
182	C 3 47	N-80°-E	楕円形	2.01 × 1.12	40	外傾	平垣	—	—	—	—	SK2660
183	B 3 36	N 0°	楕円形	[1.90] × 1.10	33	直立	平垣	—	—	—	—	SK2661
184	B 3 36	N-5°-W	楕円形	1.59 × [1.46]	21	外傾	平垣	—	—	—	—	SK2662
185	C 3 48	N-8°-W	楕円形	0.79 × 0.62	不明	不明	不明	—	—	—	—	SK2663
186	B 3 35	N-4°-W	楕円形	0.75 × 0.50	42	外傾	平垣	—	—	—	—	SK2664
187	C 3 47	N-32°-W	楕円形	[1.45 × 0.82]	不明	不明	不明	—	—	—	—	SK2665
188	C 3 47	N 8°-W	楕円形	0.97 × 0.46	不明	不明	不明	—	—	—	—	SK2666
189	C 3 48	N-7°-E	楕円形	[1.42 × 0.72]	不明	不明	不明	—	—	—	—	SK2667
190	C 3 44	N-3°-W	楕円形	1.91 × 0.94	27	直立	平垣	—	—	—	—	SK2668
191	C 3 49	N 54°-W	楕円形	1.34 × [0.90]	不明	不明	不明	—	—	—	—	SK2670
192	B 3 35	N-0°	楕円形	[1.50 × 0.68]	24	外傾	平垣	—	—	—	—	SK2671
193	B 3 35	N-3°-W	楕円形	[1.78] × 0.95	38	直立	平垣	—	—	—	—	SK2672
194	C 3 45	N 34°-E	楕円形	1.13 × [0.60]	22	緩斜	平垣	—	—	—	—	SK2673
195	C 3 45	N-21°-W	楕円形	1.45 × 0.76	53	外傾	平垣	—	—	—	—	SK2674
196	C 3 45	N-17°-W	楕円形	1.50 × 0.95	35	外傾	平垣	—	—	—	—	SK2675
197	C 3 43	N-16°-E	楕円形	1.64 × [0.76]	30	直立	平垣	—	—	—	—	SK2676
198	C 3 44	N 12°-E	楕円形	1.03 × [0.65]	40	外傾	平垣	—	—	—	—	SK2677
199	C 3 49	N-3°-W	楕円形	0.80 × 0.50	不明	不明	不明	—	—	—	—	SK2678
200	C 3 48	N-21°-E	楕円形	1.54 × 0.44	不明	不明	不明	—	—	—	—	SK2679
201	C 3 44	N-76°-W	楕円形	[0.95 × 0.82]	18	緩斜	平垣	—	—	—	—	SK2680
202	C 3 47	N-23°-W	楕円形	1.15 × 0.61	40	外傾	平垣	—	—	—	—	SK2685
203	C 3 45	N-45°-W	楕円形	[1.34 × 0.77]	21	緩斜	平垣	—	—	—	—	SK2688
204	C 3 45	N 0°	楕円形	1.93 × 1.09	47	外傾	平垣	—	—	—	—	SK2689
205	C 3 44	N 10°-W	楕円形	[2.39 × 2.03]	13	緩斜	平垣	—	—	—	—	SK2690
206	C 3 47	N-47°-W	楕円形	不明	38	外傾	平垣	—	—	—	—	SK2691
207	C 3 47	N-14°-W	楕円形	[1.34 × 0.85]	38	外傾	平垣	—	—	—	—	SK2692
208	B 3 36	N-4°-W	楕円形	[0.74 × 0.42]	23	緩斜	平垣	—	—	—	—	SK2693
209	C 3 45	N 3°-E	楕円形	0.98 × 0.82	69	外傾	平垣	—	—	—	—	SK2699
210	C 3 45	N-55°-W	楕円形	2.36 × 1.07	32	緩斜	平垣	—	—	—	—	SK2700
211	C 3 45	N-52°-W	楕円形	1.38 × 0.68	不明	不明	不明	—	—	—	—	SK2703
212	C 3 47	N 12°-E	楕円形	0.85 × [0.75]	42	外傾	平垣	—	—	—	—	SK2704
213	C 3 47	N-5°-E	楕円形	[1.35] × 0.66	45	外傾	平垣	—	—	—	—	SK2705
214	C 3 48	N-5°-E	楕円形	不明	35	外傾	平垣	—	—	—	—	SK2706
215	C 3 44	N 20°-E	楕円形	1.60 × 0.88	16	外傾	平垣	—	—	—	—	SK2707
216	C 3 47	N-21°-W	楕円形	[1.50 × 0.80]	不明	不明	不明	—	—	—	—	SK2708
217	C 3 44	N-9°-W	楕円形	1.30 × 0.81	32	外傾	平垣	—	—	—	—	SK2718

土坑番号	位置	長短方向	平面形	概 概		壁面	底面	築 込	覆土	土質・出土遺物	重複関係 (上→新)	発掘 番号
				長さ(m)×短径(m)	深さ(m)							
218	C 3 a6	N-39°-W	楕円形	[1.35 × 1.07]	27	水浸	平坦					SK2719
219	C 3 a6	N-39°-W	楕円形	[1.50] × 0.99	21	外積	平坦					SK2720
220	C 3 c7	N-80°-W	不規則四角形	2.02 × [1.52]	30	外積	平坦		人為			SK2722
221	C 3 a4	N-80°-W	楕円形	[1.50 × 0.75]	24	縁斜	平坦					SK2724
222	C 3 b6	N-10°-W	楕円形	1.42 × 0.86	26	縁斜	平坦		人為			SK2725
223	C 3 b6	N-15°-W	楕円形	1.40 × 0.76	46	外積	平坦		人為			SK2726
224	C 3 c7	N-84°-W	楕円形	1.79 × [0.94]	22	壊断	平坦			本跡→P476		SK2727
225	C 3 a5	N-7°-E	楕円形	1.53 × 0.67	33	外積	重積		人為			SK2732
226	C 3 e5	N-87°-W	楕円形	2.10 × 0.75	18	縁斜	平坦					SK2733
227	C 3 a5	N-22°-E	楕円形	不明	不明	不明	不明					SK2741
228	C 3 d6	N-84°-W	楕円形	1.70 × 0.92	25	縁斜	平坦		人為	深鉢		SK2742
229	C 3 d5	N-55°-W	楕円形	2.35 × [1.26]	23	外積	平坦		人為	浅鉢	本跡→第5号土器埋設土坑	SK2743
230	C 3 d6	N-53°-W	楕円形	[2.06 × 1.25]	33	不明	平坦		人為		本跡→第229号土坑墓	SK2744
231	C 3 c6	N-53°-W	楕円形	1.77 × 0.91	38	外積	平坦		人為			SK2745
232	C 3 b7	N-8°-E	楕円形	[1.47] × 0.93	43	外積	平坦		人為			SK2746
233	C 3 e7	N-8°-E	楕円形	1.57 × 0.90	43	外積	平坦		人為		第235号土坑墓・本跡	SK2756
234	C 3 b6	N-11°-W	楕円形	2.17 × [1.24]	43	外積	平坦		人為			SK2774
235	C 3 e7	N-57°-W	楕円形	[1.22 × 0.73]	48	不明	平坦		人為		本跡→第233号土坑墓	SK2796
236	C 3 d7	N-55°-W	楕円形	1.58 × [0.89]	不明	不明	不明					SK2824
237	C 3 b7	N-45°-W	楕円形	1.48 × [1.21]	不明	不明	不明					SK2875
238	C 3 b7	N-72°-E	楕円形	不明	不明	不明	不明					SK2876
239	C 3 b6	N-24°-E	楕円形	[1.85] × 1.02	不明	不明	不明					SK2877
240	C 3 c6	N-64°-E	楕円形	[1.73 × 1.01]	不明	不明	不明					SK2878
241	B 3 j6	N-30°-E	楕円形	[1.50] × 0.63	不明	不明	不明					—
242	B 3 g4	不明	不明	不明	不明	不明	不明					—

5 土器埋設土坑

調査2区において、屋外に単独で埋設された土器について、屋内の埋設土器と区分し、土器埋設土坑として5基を調査した。以下、それらの土器埋設土坑について記載する。

第1号土器埋設土坑（第502図）

位置 調査2区の北部、C3b2区。土坑墓群と住居跡群に挟まれた区域に位置する。

重複関係 第959号土坑及び第372号ピットを掘り込んでいる。

掘り方の規模と形状 平面形は径0.24mの円形を呈し、確認面からの深さは38cmである。

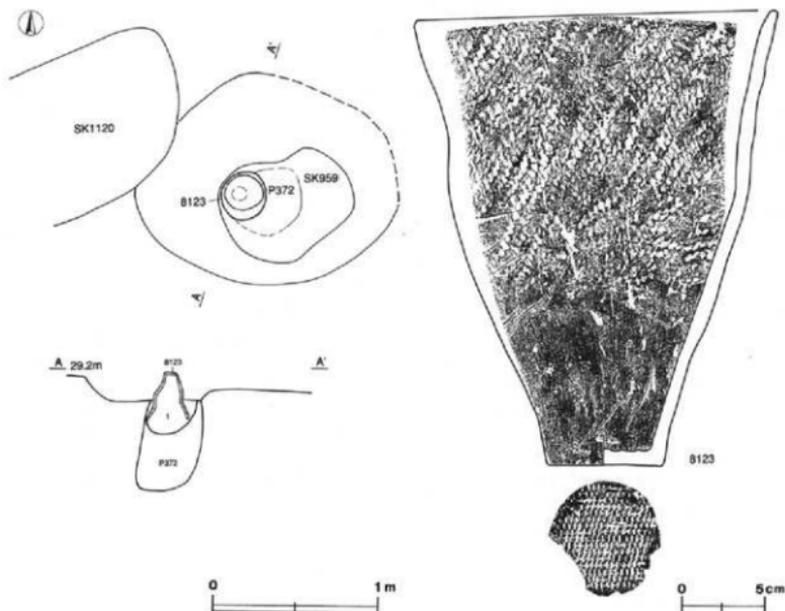
埋土 やや締まりのある単一層である。

土器解説

1 黒褐色 叩ムブロック・炭化粒を微量

遺物出土状況 8123は加前利B式土器の粗製深鉢で、掘り方の中央部に逆位に埋設された状況で出土している。

所見 時期は、当土器から後期中葉（加前利B式期）と考えられる。



第502図 第1号土器埋設土坑・出土遺物実測図

第1号土器埋設土坑出土遺物観察表(第502図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
8123	縄文土器	深鉢	22.1	27.7	7.0	口縁部から胴部上半はLRの単節縄文を横方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐色	掘り方内	底部副代表 P.L57

第2号土器埋設土坑(第503図)

位置 調査2区の北部, C3d2区。土坑墓群と住居跡群に挟まれた区域に位置する。

重複関係 第1291・1292号土坑を掘り込んでいる。

掘り方の規模と形状 平面形は長径47cm, 短径38cmの楕円形を呈し, 確認面からの深さは20cmである。

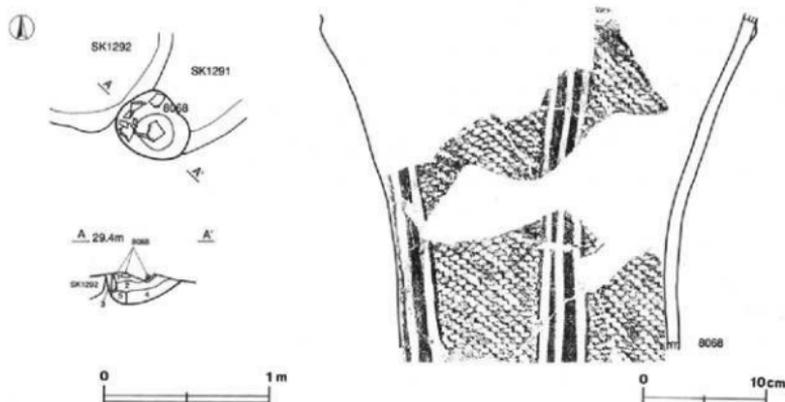
埋土 5層に分層される。ローム粒子を含み, やや締まりがある。第1～3層は土器内に堆積もしくは充填されたもの, 第4・5層は掘り方の埋土と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------|-------|-----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 4 褐色 | ローム粒子多量, 炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量 | | |

遺物出土状況 口縁部及び底部を欠く8068の深鉢が, 掘り方の北西寄りに正位に埋設された状況で出土している。

所見 時期は, 出土土器から中期後葉(加曾利EⅡ時期)と考えられる。



第503図 第2号土器埋設土坑・出土遺物実測図

第2号土器埋設土坑出土遺物観察表(第503図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
8068	縄文土器	深鉢	—	(27.1)	—	比線による懸垂文調を磨り消す。L・R Lの模範縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい地	掘り方内	外面底付着

第3号土器埋設土坑(第504図)

位置 調査2区の北部, B3j6区。土坑墓群域に位置する。

重複関係 第140・141号土坑墓を掘り込んでいる。

掘り方の規模と形状 平面形は長径66cm, 短径56cmの楕円形を呈し, 確認面からの深さは33cmである。

埋土 4層に分層される。ロームブロック・粒子を含み, やや締まりがある。第1層は土器内に堆積もしくは充填されたもの, 第2～4層は掘り方の埋土と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量

- 3 黒褐色 ロームブロック少量
- 4 棕褐色 ローム粒子少量



第504図 第3号土器埋設土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 胴部下半を欠く8069の深鉢が、掘り方のほぼ中央部に逆位に埋設された状態で出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利EⅢ式期）と考えられる。

第3号土器埋設土坑出土遺物観察表（第504図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
8069	縄文土器	深鉢	27.8	(17.3)	—	口縁部は沈線が尙う残存文。胴部は沈線による逆じ字状の懸垂文間を磨り消す。L Rの単筋縄文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐	掘り方内	P L 57

第4号土器埋設土坑（第505図）

位置 調査2区の北部，C3d9区。土坑墓群と住居跡群に挟まれた区域に位置する。

重複関係 第179号土坑墓を掘り込んでいる。

掘り方の規模と形状 径56cmほどの円形を呈し、確認面からの深さは16cmほどである。

埋土 2層に分層される。ロームブロック・粒子を含み、やや締まりがある。

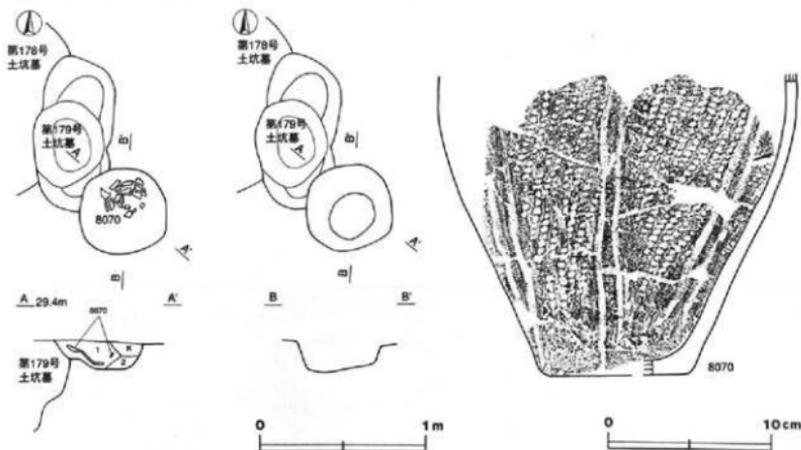
土層解説

1 黒褐色 ロームブロック微量

2 暗褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 口縁部及び底部を欠く8070の深鉢が、掘り方の北寄りに正位に埋設された状態で出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利EⅡ式期）と考えられる。



第505図 第4号土器埋設土坑・出土遺物実測図

第4号土器埋設土坑出土遺物観察表（第505図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
8070	縄文土器	深鉢	—	(18.4)	9.0	2条一組の沈線による懸垂文間を磨り消す。R L Rの複筋縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	掘り方内	

第5号土器埋設土坑 (第506図)

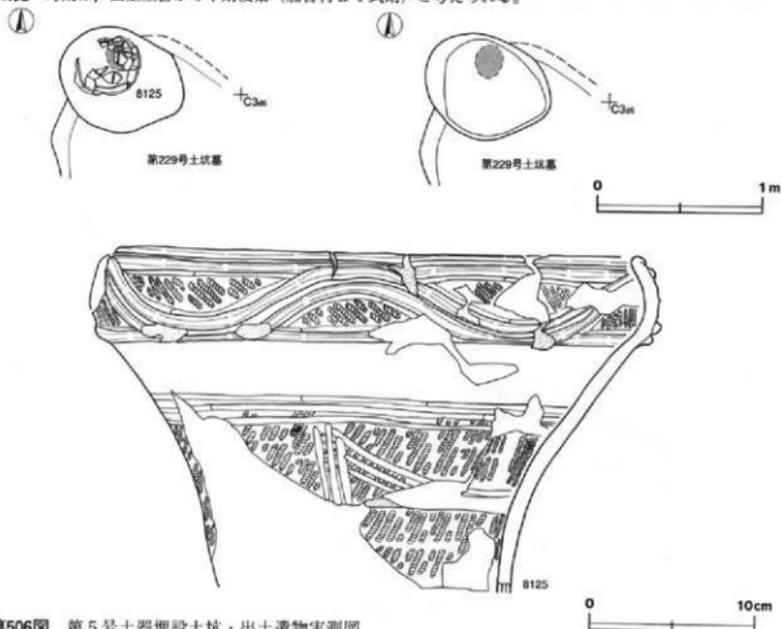
位置 調査2区の北部, C3c5区。土坑墓群と住居跡群に挟まれた区域に位置する。

重複関係 第229号土坑墓を掘り込んでいる。

掘り方の規模と形状 長軸73cm, 短軸59cmの楕円形を呈し, 確認面からの深さは28cmほどである。底面から粘土塊が検出されたが, 性格は不明である。

遺物出土状況 胴部下半を欠く8125の深鉢が, 掘り方のはほぼ中央部に逆位に埋設された状況で出土している。

所見 時期は, 出土土器から中期後葉(加曾利E I式期)と考えられる。



第506図 第5号土器埋設土坑・出土遺物実測図

第5号土器埋設土坑出土遺物観察表(第506図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
8125	縄文土器	深鉢	31.3	(20.7)	—	口縁部は沈線に沿う隆帯文。胴部は3条一組の沈線により文様を呈出。R Lの単筋縄文を施文。	長石・石英	普通	にぶい肌	掘り方内	P L 57

表6 土器埋設土坑一覧表

土器埋設土坑番号	位置	平面形	掘り方の規模(cm)		出土遺物	埋設状態	重複関係(古→新)	発掘番号
			長径×短径	深さ				
1	C3b2	円形	24	38	深鉢(完形)	逆位	SK959・P372→本跡	1
2	C3d2	楕円形	47×38	20	深鉢(口縁部及び底部欠損)	正位	SK1291・1292→本跡	2
3	B3j6	楕円形	66×56	33	深鉢(胴部下半欠損)	逆位	土坑墓140・141→本跡	3
4	C3d9	円形	56	16	深鉢(口縁部及び底部欠損)	正位	土坑墓179→本跡	4
5	C3c5	楕円形	73×59	28	深鉢(胴部下半欠損)	逆位	土坑墓229→本跡	5

6 ビット群

今回の調査で、ビット群1か所を確認した。以下、その特徴について記述する。

第1号ビット群 (第507・508図)

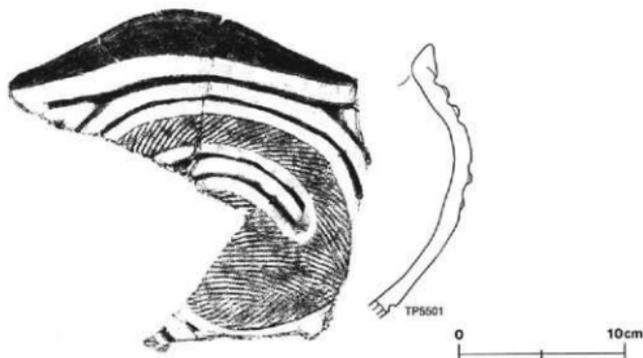
位置 調査2区の北部、C3a1区～C3e4区。土坑墓群と住居跡群に挟まれた区域に位置する。

重複関係 第52号掘立柱建物のP4にビット群のP119が掘り込まれている。第53号掘立柱建物のP1にビット群のP63が、P3にビット群のP10が掘り込まれている。第55号掘立柱建物のP1にビット群のP81が掘り込まれている。

規模と形状 南北約20m、東西約16mの範囲から、136基のビットを確認した。ビットの平面形は径16～98cmの円形あるいは楕円形で、深さは6～106cmである。

遺物出土状況 縄文土器片116点、礫4点が覆土から出土している。縄文時代中期中葉から後葉にかけての特徴を有するものが多い。TP5501は深鉢片でP4から出土している。

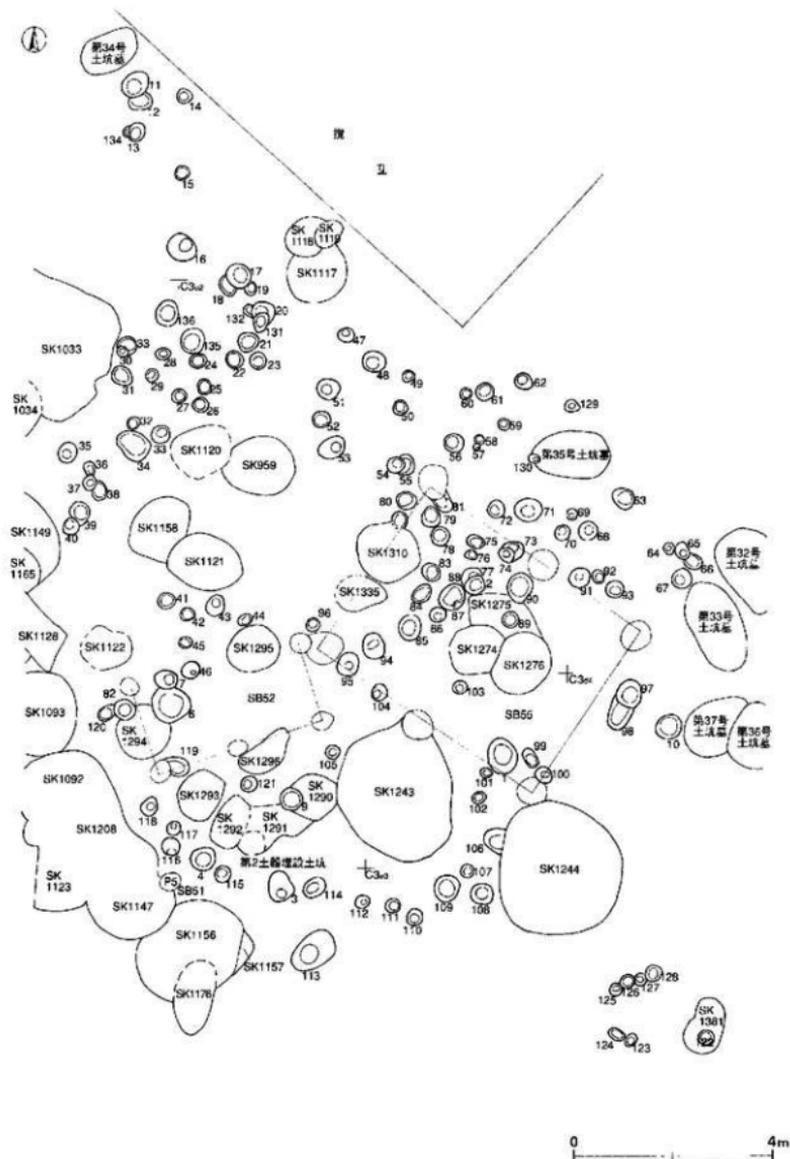
所見 本群は、掘立柱建物跡や方形柱穴列を構成せず、また住居跡の主柱穴とも異なるもので、関連性の不明のものを平面的な広がりとしてビット群と呼んだものである。本群は、土坑墓群の外周域、住居群と土坑墓群に挟まれた区域に存在していることから、土坑墓群に関連するビットの可能性が考えられる。また、放射状に配列された土坑墓群を有する環状集落では、土坑墓群の外周域に方形柱穴列や掘立柱建物跡が検出される例もあるため、その可能性も考えられる。出土遺物が少なく、時期は不明であるが、TP5501などの出土土器から判断して縄文時代中期と考えられる。



第507図 第1号ビット群P4出土遺物実測図

第1号ビット群P4出土遺物観察表 (第507図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP5501	縄文土器	深鉢	—	(16.6)	—	沈痾が沿う隆帯で文様を描出。地文はLRの単筋縄文で、横方向、斜方向に施文。	長石・石英	普通	にぶい橙	覆土	



第508図 第1号ビット群遺構全体図

表7 第1号ピット群一覧表

番号	長径 (m)	短径 (m)	深さ (cm)	番号	長径 (m)	短径 (m)	深さ (cm)	番号	長径 (m)	短径 (m)	深さ (cm)
1	0.72		63	47	0.36	0.30	82	93	0.38		29
2	0.44	0.38	78	48	0.46		88	94	0.54	0.46	64
3	0.62	0.52	70	49	0.26	0.22	39	95	0.36		77
4	0.52	0.48	46	50	0.28		18	96	0.32		19
5			—	51	0.46	0.43	83	97	0.50		28
6	0.82	0.72	64	52	0.36		38	98	[0.72]	0.47	25
7	0.50	0.38	32	53	0.58	0.36	70	99	0.40	0.24	20
8	0.48	0.42	39	54	0.36	0.31	84	100	0.36	0.32	47
9	0.36		45	55	0.38]		24	101	0.22		20
10	0.53	0.47	101	56	0.42		32	102	0.28		20
11	0.58	0.48	44	57	0.16		21	103	0.30		64
12	0.48	[0.38]	24	58	0.20		20	104	0.36		39
13	0.42	0.34	33	59	0.26		21	105	0.28		14
14	0.30		20	60	0.24		23	106	[0.55]	0.50	37
15	0.30		16	61	0.36		19	107	0.28		20
16	0.62	0.52	81	62	0.34		49	108	0.48	0.43	37
17	0.52		60	63	0.48	[0.42]	19	109	0.56	0.49	30
18	0.44	[0.30]	21	64	0.22		31	110	0.34		34
19	0.26		22	65	0.34	0.34	38	111	0.32		31
20	0.52		19	66	0.42	0.30	30	112	0.30		45
21	0.44	0.36	36	67	0.44	0.40	25	113	0.98	0.56	83
22	0.36		48	68	0.38		21	114	0.50	0.36	33
23	0.34	0.34	34	69	0.26		37	115	0.35		42
24	0.38		30	70	0.34		33	116	0.40	0.36	23
25	0.32		15	71	0.57	0.47	102	117	0.31	0.26	27
26	0.30		27	72	0.37	0.32	50	118	0.38	0.36	43
27	0.28		16	73	[0.52]	0.40	24	119	[0.52]	0.38	33
28	0.31	0.26	35	74	0.34		36	120	0.36	0.28	36
29	0.24		22	75	0.36	0.28	46	121	0.34		16
30	0.42	0.38	27	76	0.24	0.20	31	122	0.32		34
31	0.44	0.38	13	77	0.48	[0.34]	40	123	0.28	0.23	33
32	0.28		42	78	0.40		17	124	0.36	0.24	29
33	0.38		39	79	0.42		6	125	0.26		23
34	0.68	0.54	48	80	0.42		24	126	0.31		38
35	0.44	0.38	52	81	[0.48]	0.32	38	127	0.28		19
36	[0.32]	0.22	56	82	0.32		25	128	0.36		30
37	0.32		73	83	0.42	0.34	34	129	0.26		31
38	0.42	0.32	37	84	0.48	0.34	30	130	0.22		40
39	0.46	0.38	23	85	0.54		92	131	[0.36]	0.26	24
40	0.32		90	86	0.36		53	132	[0.28]	0.24	12
41	0.35		33	87	0.26	0.14	46	133	0.42		18
42	0.30		19	88	0.58	0.50	30	134	0.25	[0.20]	26
43	0.44	0.36	58	89	0.34		24	135	0.50		106
44	0.31	0.22	44	90	0.64	0.50	34	136	0.66	0.58	85
45	0.28		17	91	0.44		41				
46	0.40	0.16	39	92	0.30		30				

7 ビット

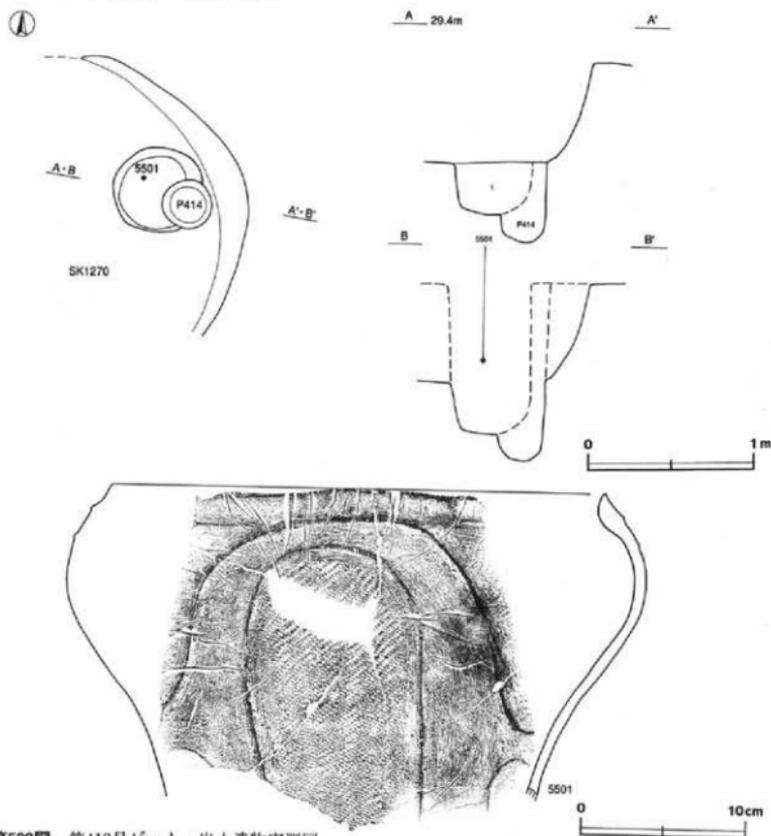
この項で取り扱うビットとは、土坑にするには小さい径0.7m以下のもの、径に対して深さの深いもの、と定義した。用途としては、土坑(貯蔵穴)、柱穴等が考えられるが、ここでは機能がはっきりしなかったため性格不明とした。2区の調査では、356基のビットを確認した。ビットは、遺物の出土状況が良好なものについて解説を加え、それ以外のものは一覧表で記載した。

第413号ビット (第509図)

位置 調査2区の北部、C2j0区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第1270号土坑、第414号ビットを掘り込んでいる。

規模と形状 平面形は長径0.54m、短径0.50m程度のほぼ円形である。底面は重状で、確認面からの深さは34cmである。断面形はU字状である。



第509図 第413号ビット・出土遺物実測図

覆土 確認できたのは1層のみである。土層観察用ベルトの設定位置が中心からはずれたため、第1270号土坑と重複している本跡の上層は確認できなかった。単一層なので、一気に埋め戻された人為堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒少量

遺物出土状況 縄文土器片3点が覆土から出土している。5501は深鉢で、覆土中層から出土している。

所見 時期は、覆土中層から出土している5501などから中期後葉（加曾利E IV式期）と考えられる。

第413号ピット出土遺物観察表（第509図）

番号	種別	器種	口径(cm)	口径(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5501	縄文土器	深鉢	[30.0]	(18.7)		位階帯により区画文を抽出し、区画帯を帯り出す。区画内には直しの準部縄文を欠す。	長石・石英	赤褐色		覆土中層	

第704号ピット（第510・511図）

位置 調査2区の北部、D3b7区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第1862号土坑を掘り込んでいる。第703号ピットと重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 平面形は長径0.46m、短径0.44m程度のはほぼ円形と推定される。底面は皿状で、確認面からの深さは95cmである。断面形はU字状である。

覆土 3層に分層される。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

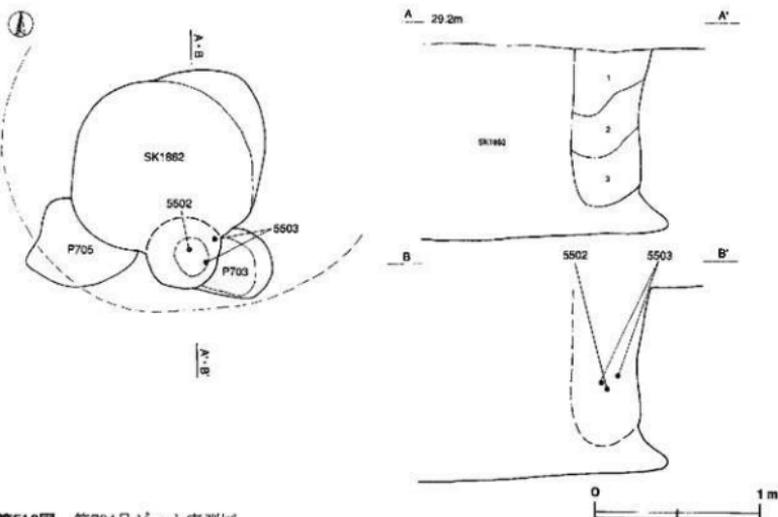
1 黒褐色 ローム粒子・炭化物微量

3 黒褐色 コ・ム粒子微量

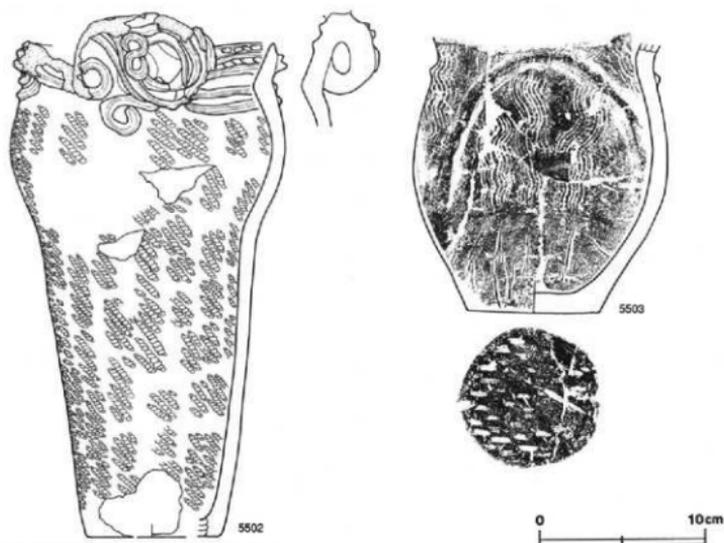
2 暗褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片16点が、主に覆土中層から出土している。5502・5503の深鉢は、覆土中層から出土している。

所見 時期は、覆土中層から出土している5502・5503などから中期後葉（加曾利E I式期）と考えられる。



第510図 第704号ピット実測図



第511図 第704号ビット出土遺物実測図

第704号ビット出土遺物観察表 (第511図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5502	縄文土器	深鉢	[14.9]	(31.8)	[8.1]	S字状文で加飾した把手。口縁部には4、5本の隆帯が走る。地文はしじら単節織文。	長石・石英・パミス	普通	橙	覆土中層	P.L57
5503	縄文土器	深鉢	—	(16.6)	8.0	胴部は隆帯による逆U字状文。地文は櫛歯状工具による波状委縮文。	長石・石英	普通	橙	覆土中層	底部刷代紙

表8 ビット一覧表

番号	位置	長径 (m)	短径 (m)	深さ (cm)	発掘番号	番号	位置	長径 (m)	短径 (m)	深さ (cm)	発掘番号
350	B 3g3	0.46	0.30	48		365	C 2a8	0.56	0.40	33	
351	B 3h2	0.65	0.42	—		366	B 2j8	0.54	0.51	29	
352	B 3h2	[0.39]	[0.28]	19		367	C 2c6	0.37	—	—	
353	B 3h1	0.35	0.29	43		368	C 2i6	0.57	0.52	87	P1
354	B 3i2	0.69	0.45	107		371	C 2d9	[0.45]	0.32	47	P4
355	B 2i0	0.62	[0.56]	35		372	C 3b2	0.48	—	68	P5
356	C 2a0	[0.60]	0.55	55		374	C 2d6	0.63	0.54	—	P7
357	C 2a0	[0.45]	—	42		375	C 2e6	0.44	—	127	P8
358	C 2a9	0.43	0.40	78		376	C 2e6	0.73	0.63	106	P9
359	C 2a8	0.63	0.42	128		377	C 2e6	0.43	—	109	P10
360	C 2a9	0.52	—	87		378	C 2e6	0.52	0.41	99	P11
361	C 2b7	0.37	0.32	—		379	B 2j9	0.33	—	79	
362	C 2c7	0.42	0.32	—		381	C 2d6	0.45	—	—	
363	C 2b7	0.63	0.52	—		382	C 2b9	0.38	—	95	
364	B 3i1	0.48	0.36	30		383	C 2c9	0.52	0.42	10	

番号	位置	長径 (m)	短径 (m)	深さ (cm)	発掘番号	番号	位置	長径 (m)	短径 (m)	深さ (cm)	発掘番号
384	C 2 e7	0.48	0.33	70		440	C 3 j1	0.68	0.50	60	P 57
385	C 2 e7	0.42		35		441	C 3 j1	0.53		127	P 58
386	C 2 e9	0.43	0.32	50		442	C 2 b9	0.48	[0.36]	103	
387	C 2 f7	0.73	[0.65]	85	P 12	443	D 3 a1	0.31		43	
388	C 2 f7	0.47	0.37	108	P 13	444	C 3 f4	0.72	0.63	41	
389	C 2 f7	[0.48]	0.41	95	P 14	445	D 3 a2	0.31		28	P 59
390	C 2 f7	0.53	0.34	134	P 15	446	D 3 a2	0.50		118	
391	C 2 f8	0.34	0.29	118	P 16	447	C 3 b1	0.66	0.56	38	P 60
392	C 2 f8	0.32	0.30	70	P 17	448	D 3 g4	0.31		40	P 61
393	C 2 h8	[0.58]	0.52	18	P 18	449	C 3 i1	0.36	0.28	48	P 62
394	B 3 h1	0.76	0.58	46	P 19	450	C 3 i1	0.38	0.30	22	P 63
395	C 2 a11	[0.64]		81	P 20	451	B 3 g4	0.42	0.31	37	P 64
399	C 2 f7	0.42		81	P 25	453	D 3 j4	0.30	0.26	66	P 66
400	C 2 g7	[0.46]		125	P 26	454	C 3 i1	0.46	0.36	166	P 67
401	C 2 g7	[0.46]	0.32	129	P 27	456	D 3 a2	0.43		110	
402	C 2 e9	0.54	0.42	17		458	C 3 a4	0.30	0.26	49	P 69
403	C 2 f8	0.48	0.44	125	P 28	459	C 3 j4	0.55	0.46	123	P 70
404	C 2 f8	0.61	0.56	103	P 29	460	C 3 j4	0.37	0.35	52	P 71
405	C 2 i7	0.42	0.32	48	P 31	461	D 3 b1	0.44	0.36	42	P 72
406	C 2 h8	0.82	0.55	49		462	C 3 j1	0.32		56	P 73
407	C 2 g9	0.52		94		463	B 3 j7	0.26		23	P 74
408	C 2 g9	0.38		26		464	D 3 b1	0.52	0.43	34	P 75
409	D 2 a7	0.46				465	C 3 c8	0.35	0.33	54	P 76
410	D 2 a7	0.24				466	C 3 j2	0.60	0.46	92	P 77
411	C 3 h1	0.56		76	P 34	467	C 3 e9	0.28		47	
412	C 3 h2	[0.42]	0.36	41		468	C 3 j2	0.45	0.42	41	
413	C 2 j0	0.54	0.50	34	P 35	469	C 3 a5	0.35		47	P 78
414	C 2 j0	0.32		65		470	C 3 i5	0.28		51	P 79
415	C 2 h0	0.54	0.51	48	P 36	471	C 3 a5	0.57	0.50	50	
416	C 2 g0	0.38	0.31	34		472	C 3 a0	0.48	0.38	50	
417	C 3 e5	0.60	0.52	35	P 37	473	C 3 a0	0.35	0.31	13	
418	C 3 a4	0.66	0.53	52	P 38	475	C 3 j4	0.45	0.35	46	P 80
420	D 2 a0	0.43		61	P 40	476	C 3 c6	0.60		53	P 82
421	D 2 a0	0.28		71		477	C 3 i5	0.38			P 83
422	D 2 a0	0.29		44	P 41	478	C 3 j3	0.45	0.38	86	P 84
423	D 3 a1	[0.33]		102		479	C 3 g6	[0.65]	0.60	40	P 85
426	D 2 a0	0.45	0.40	91	P 44	480	C 3 d7	0.41	0.32	32	P 86
427	D 2 a0	0.55		28	P 45	481	D 3 b3	0.48	0.38	119	P 87
428	D 2 a0	0.52	[0.43]			482	D 3 b3	0.55	0.46	129	P 88
432	C 3 j0	0.58		65	P 49	483	C 3 e6	0.28	0.18	25	P 89
433	C 2 i0	0.55	0.40	60	P 50	484	C 4 g1	0.60		49	P 90
434	C 3 i1	0.56	0.52	155	P 51	485	C 3 e7	0.46	0.36	80	P 91
435	C 3 i1	0.83	0.65	90	P 52	486	C 3 f0	0.48		98	P 92
436	C 3 i1	0.56	0.48	79	P 53	487	C 3 d7	0.56	0.45	39	P 93
437	C 3 i1	0.48	0.38	48	P 54	488	C 3 d7	[0.32]	0.23	34	P 94
438	C 3 i1	0.44	0.34	5	P 55	489	C 3 f8	0.48	0.45	37	
439	C 3 j1	0.67		101	P 56	490	C 3 j4	0.61		44	

番号	位置	長径 (m)	短径 (m)	深さ (cm)	発掘番号	番号	位置	長径 (m)	短径 (m)	深さ (cm)	発掘番号
491	C 3 e7	[0.42]	0.36	37	P 95	540	C 3 j5	0.54		19	P 145
492	C 3 09	0.76	0.56	73	P 96	541	C 3 j5	0.61	0.41	28	P 146
491	C 3 j2	0.51		90	P 97	542	C 3 j4	0.31		20	P 147
494	C 3 j3	0.33		55	P 98	543	C 3 j4	0.45		44	P 148
495	C 3 j6	0.74	0.69	96	P 99	544	C 3 j4	0.52		48	P 149
496	D 2 a8	0.34		71	P 100	545	C 3 j4	0.52	0.46	26	P 150
497	D 3 b5	0.44		48	P 101	546	C 3 j4	0.36		16	P 151
498	D 3 b5	0.58	0.52	125	P 102	547	C 3 j4	0.43		86	P 152
499	C 3 i5	0.44	0.38	32	P 103	548	D 3 a4	0.44		28	P 153
501	D 3 b4	0.54	0.43	30	P 105	549	D 3 g0	0.48		36	P 154
503	D 3 a6	0.71	0.53	125	P 107	550	E 4 i1	0.49		16	P 155
504	D 3 c5	0.56		35	P 108	551	E 4 i1	0.49	0.41	28	P 156
505	D 3 c6	0.54	0.50	41	P 109	552	E 4 i1	0.52	0.46	36	P 157
506	D 3 c6	0.66	0.33	116	P 110	553	E 4 j1	0.46	0.39	10	P 158
507	D 3 c6	0.61	0.10	73	P 111	554	E 4 j1	0.47		18	P 159
508	C 3 i5	0.58	0.48	20	P 112	555	E 3 g4	0.52		44	P 160
509	C 3 i5	0.46	0.36	74	P 113	557	D 3 a7	0.48	0.43	28	P 162
510	D 3 a4	0.39	[0.32]	17	P 114	558	D 3 a6	0.77	0.68	59	P 163
511	C 3 j5	0.54	0.37	23	P 115	559	D 3 i6	0.68	0.58	53	P 167
512	D 2 a0	0.45	0.41	110	P 116	560	D 3 i7	0.45		43	P 168
513	D 2 a0	0.55	0.53	108	P 117	561	D 3 i6	0.74		63	P 169
514	D 2 a0	0.43		43	P 118	562	D 3 i6	0.91	0.58	53	P 170
515	D 2 i6	0.46	0.43	45	P 119	563	D 3 i6	0.94	0.54	56	P 172
516	D 3 e4	0.36		79	P 120	564	D 3 i8	0.81		28	P 175
517	D 3 e4	0.34		65	P 121	565	D 3 i8	0.54		52	P 176
518	D 3 e4	0.55		103	P 122	566	D 3 i7	0.39		44	P 177
519	C 3 i2	0.66	0.56	33	P 123	567	D 3 i7	0.69	0.64	58	P 178
520	C 3 i2	0.61	0.43	81	P 124	568	D 3 i6	0.43		72	P 179
521	D 3 i6	0.34	0.30	93	P 125	569	C 3 i9	0.66	0.58	31	P 180
522	D 3 i6	0.44		98	P 126	570	C 3 g7	0.67		108	P 181
523	D 3 i6	[0.45]	0.38	34	P 127	571	C 3 j1	0.44	0.40	35	P 182
524	D 3 i4	0.51		95	P 128	572	C 3 j0	0.41	0.38	36	P 183
525	D 3 i3	0.53	[0.50]	87	P 129	573	D 3 i7	0.36		101	P 184
526	C 3 g7	0.78		122	P 130	574	D 3 i7	0.31		85	P 185
527	D 3 i6	0.49	0.33	90	P 131	575	D 3 g8	0.44		31	P 186
528	C 3 j6	[0.54]	0.33	35	P 132	576	D 3 i8	0.53		15	P 187
529	D 3 d1	0.62		48	P 133	577	D 3 i6	0.48		78	P 188
530	C 3 j5	0.36			P 135	578	D 3 i6	0.69	0.60	44	P 189
531	C 3 j5	0.72	0.59	106	P 136	579	D 3 a6	0.44	0.36	77	P 190
532	C 3 j5	0.92	0.66	89	P 137	580	D 3 c9	0.30		82	P 191
533	C 3 j5	0.50	0.45	107	P 138	581	C 3 g7	0.47	0.38	42	P 192
534	D 3 a5	0.58	0.48	106	P 139	582	C 3 g7	0.33		81	P 193
535	D 3 a5	0.50		36	P 140	583	C 3 g7	0.56		82	P 194
536	D 3 a5	0.34		26	P 141	585	C 3 i7	0.51		50	P 196
537	C 3 j5	0.28		23	P 142	586	C 3 i7	0.62		81	P 197
538	C 3 j5	0.52		33	P 143	587	C 3 i7	0.49	0.40	61	P 198
539	D 3 a1	0.81	0.42	25	P 144	588	D 4 a1	0.27		62	P 199

番号	位置	半径 (m)	直径 (m)	深さ (cm)	発振番号	番号	位 号	半径 (m)	直径 (m)	深さ (cm)	発振番号
589	D 4 a1	0.48	0.30	16	P 200	641	D 3 a0	0.33		56	P 254
590	C 4 i2	[0.40]	0.36	84	P 201	642	D 3 a0	0.30		40	P 255
591	C 4 i2		[0.36]	78	P 202	643	D 3 b0	[0.48]	0.39	131	P 256
592	C 4 i2	[0.48]	0.34	84	P 203	644	D 3 b0	0.41		28	P 257
593	C 4 i2	0.45	0.38	61	P 204	645	D 3 b0	0.43	0.36	20	P 258
594	D 3 g3		0.38	24	P 205	646	D 3 b0	0.31		24	P 259
595	D 3 g4		0.33	28	P 206	647	D 3 b0	0.46	0.33	83	P 260
596	D 3 g4		0.38	18	P 207	648	D 3 b7	0.51	0.32	56	P 261
597	D 3 g4		0.51	36	P 208	649	C 3 j8		0.35	40	P 262
598	C 4 i2		0.22	46	P 209	650	C 3 j8		0.31	33	P 263
599	D 3 i4	0.66	0.55	54	P 211	651	C 3 j8	0.74	0.53	16	P 264
600	D 3 i8		0.37	26	P 212	652	D 3 a8	0.41		38	P 265
601	D 3 j7		0.40	35	P 213	653	D 3 a8	0.38		33	P 266
602	F 3 a3		0.51	34	P 215	654	D 3 a8	0.52		24	P 267
603	D 3 i9		0.42	73	P 216	655	C 3 j8	0.41	0.29	69	P 268
604	D 3 j7	[0.65]	0.58	65	P 217	656	C 3 j8		0.50	25	P 269
605	D 3 j7		0.56	33	P 218	657	D 3 a8		0.38	80	P 270
606	D 3 e6		0.54	42	P 219	658	D 3 a8	0.35	0.30	84	P 271
607	D 3 e6		0.42	55	P 220	659	D 3 a8		0.43	60	P 272
608	D 3 e6	0.85	0.76	18	P 221	660	D 3 e7	0.49	0.43	101	P 273
609	D 3 e7	0.72	0.66	52	P 222	661	D 3 e7		0.49	108	P 274
610	D 3 e7		0.54	37	P 223	662	D 3 e7	0.48	0.41	104	P 275
611	D 3 e7		0.33	18	P 224	663	D 3 e7	0.33	0.28	17	P 276
612	D 4 f3		[0.43]	23	P 225	664	D 3 d7		0.43	152	P 277
613	D 4 h0	0.36	0.32	56	P 226	665	D 3 e7	0.54	0.42	164	P 278
614	D 4 h1		[0.28]	41	P 227	668	D 3 d7	0.35	0.27	13	P 281
615	D 3 h0	0.34	0.23	63	P 228	669	D 3 d7	0.24	0.20	19	P 282
616	D 3 e6	0.46	0.31	131	P 229	670	D 3 e6		0.16	32	P 283
617	D 3 i9		0.36	78	P 230	671	D 3 e6		0.35	132	P 284
618	D 3 e6	0.81	0.71	48	P 231	672	D 3 b7	0.66	0.41	160	P 286
619	D 3 a8		0.57	119	P 232	675	E 3 d7	0.83	0.65	39	P 289
620	D 3 a8		[0.46]	114	P 233	676	E 3 d7		0.61	32	P 290
621	D 3 e7	0.76	0.48	128	P 234	678	D 3 h3	0.55	0.50	43	SI169P2
622	D 3 e7	0.28	0.15	46	P 235	679	C 3 e5	0.63	0.53	78	SI164P3
623	D 3 e7	0.51	0.43	81	P 241	680	D 3 e7		0.50	28	
629	D 3 a7		0.49	102	P 242	681	F 3 a4		0.70	130	
630	D 3 a7		0.28	15	P 243	682	F 3 e4	0.66	0.54		
631	D 3 a8	[0.53]	0.45	37	P 244	683	D 3 i9		0.54	68	
632	D 3 a8		0.18	69	P 245	684	C 3 h1	0.34	0.28	22	
633	D 3 e4	0.56	0.50	50	P 246	685	C 2 a8	0.41	0.39	48	
634	D 3 e4	[0.35]	0.28	46	P 247	686	C 2 a8	0.32	0.30	45	
635	D 3 e4	0.33	0.28	38	P 248	687	D 3 b4	0.42	(0.22)	33	
636	D 3 e5		0.23	32	P 249	688	D 3 b4		0.48	42	
637	D 3 e5	0.45	0.36	58	P 250	689	D 3 b6	0.70	0.48		
638	D 3 e5	0.50	0.38	14	P 251	690	D 3 e6	[0.34]	0.30		
639	D 3 b9	[0.57]	0.45	47	P 252	691	D 3 e6		0.44	73	
640	D 3 b9	[0.58]	0.48	95	P 253	692	C 3 e5	[0.32]	0.22		

番号	位 置	長径 (m)	短径 (m)	深さ (cm)	発掘時与	番 号	位 置	長径 (m)	短径 (m)	深さ (cm)	発掘番号
693	C 3 e5	0.42	0.35	—		715	C 2 e5	0.58	0.52	—	
694	C 3 j4	0.54	0.47	79		716	C 2 e5	0.60	—	—	
695	C 3 j3	0.25	—	22		717	C 2 e6	0.50	0.36	—	
696	F 3 c1	0.58	—	41		718	D 3 b8	[0.48]	—	49	SK20126
697	F 3 c0	0.42	0.30	22		719	D 3 a7	0.70	0.51	81	
698	F 3 b0	0.36	—	34		720	D 3 a7	0.32	0.30	94	
699	F 3 b0	0.30	0.27	18		721	D 3 b9	0.48	0.34	76	
700	F 3 e9	0.39	—	16		722	B 3 j1	0.70	[0.56]	46	SK2137
701	C 3 b4	0.43	—	—		723	B 3 j1	0.60	0.53	—	SK2235
702	C 3 i5	0.62	0.51	30		724	D 3 b8	0.34	0.32	63	
703	D 3 b7	[0.54]	0.41	44		725	C 2 f7	0.57	0.33	45	
704	D 3 b7	[0.46]	[0.44]	95		726	C 2 h7	0.28	0.24	74	
705	D 3 b6	0.63	0.54	46		727	D 3 d3	0.43	0.34	57	
706	E 3 a9	0.36	0.46	48		728	D 3 a9	0.42	0.40	—	
707	D 3 b3	0.54	0.52	47		729	C 3 j0	0.32	0.28	—	
708	D 3 b3	0.47	0.43	41		730	F 3 f6	0.60	0.54	—	
709	D 3 b2	0.55	—	49		731	C 3 a4	0.33	0.30	49	
710	D 3 b2	0.54	0.46	97		732	C 2 j0	0.30	0.26	29	
711	D 3 b2	0.60	0.54	48		733	C 2 j0	0.32	0.28	21	
712	B 3 j5	[0.40]	0.36	—		734	C 2 j0	0.30	—	80	
713	D 3 b7	0.60	[0.55]	36		735	C 3 h8	0.35	0.29	—	
714	C 2 e5	0.70	[0.48]	60		736	D 3 b2	0.28	0.22	18	

8 陥し穴

第7号陥し穴 (第512図)

位置 調査2区の北部, B3区。土坑墓群域に位置する。

確認状況 一部が調査区域外に及んでいる。

規模と形状 北西部が調査区域外のため, 開口部の平面形は長径1.70m, 短径1.24m 程度の不整形円形と推定される。推定される長径方向はN-14°-Wである。底面の平面形は長径1.60m, 短径0.34m 程度の不整形円形である。底面は平坦で, 深さは98cmである。壁は外傾及び直立し, 横断面はU字状を呈している。

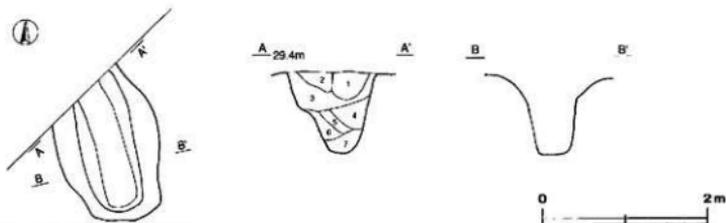
覆土 7層に分层される。不自然な堆積状況やロームブロックが相当量含まれていることから, 人為堆積と考えられる。

土層解説

1 黒 色	ローム砂子・炭化粒子微量	5 暗褐色	ロームブロック中量
2 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	6 暗褐色	ロームブロック多量
3 黒褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	7 灰褐色	ロームブロック多量
4 黒褐色	ロームブロック中量		

遺物出土状況 縄文土器片7点, 磨製石斧1点が覆土から出土している。

所見 本跡は, 土坑墓群域に位置しているので集落の時期とは異なると考えられる。出土土器が少なく時期は不明であるが, 遺構の形態から判断して縄文時代と考えられる。



第512図 第7号陥し穴実測図

第8号陥し穴 (第513図)

位置 調査2区の南部, E4c1区。住居跡群の外周域に位置する。

規模と形状 開口部の平面形は長径2.40m, 短径1.30m程度の不整楕円形である。推定される長径方向はN-24°-Eである。底面の平面形は長径2.14m, 短径0.48m程度の不整楕円形である。底面は平坦で、深さは110cmである。壁は外傾及び直立し、横断面はU字状を呈している。木杭を立てた痕跡と考えられる小ピットが7か所確認された。P1～P7は深さ10cm～16cmである。

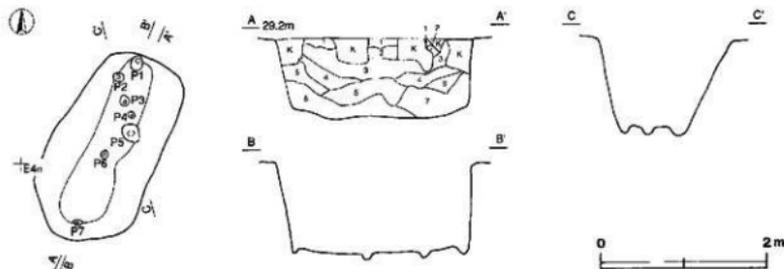
覆土 8層に分層される。不自然な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|-----------------------------------|----------------|
| 1 黒褐色 ローム短丁破産 | 5 褐色 ロームブロック多量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・鹿沼バミスブロック微量 | 6 褐色 ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック微量 | 7 褐色 ロームブロック多量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック少量 | 8 褐色 ローム短丁多量 |

遺物出土状況 縄文土器片7点, 石1点が出土している。

所見 出土土器が少なく時期は不明であるが、遺構の形態から判断して縄文時代と考えられる。



第513図 第8号陥し穴実測図

第9号陥し穴 (第514図)

位置 調査2区の南部, D3e7区。住居跡群の外周域に位置する。

規模と形状 開口部の平面形は長径1.50m, 短径0.98m程度の楕円形である。推定される長径方向はN-86°-Wである。底面の平面形は長径0.82m, 短径0.38m程度の楕円形である。底面は平坦で、深さは106cmである。壁は外傾し、横断面はU字状を呈している。

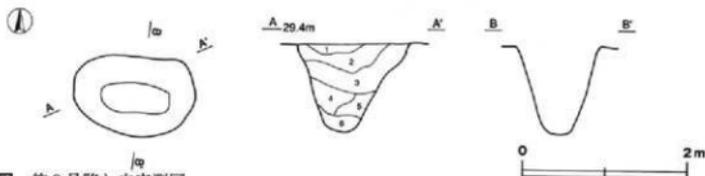
覆土 6層に分層される。不自然な堆積状況や鹿沼バミスブロックが相当量含まれていることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック多量, 鹿沼パミスブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック多量, 鹿沼パミス粒子少量 |

遺物出土状況 縄文土器片8点が出土している。

所見 出土遺物が少なく時期は不明であるが、遺構の形態から判断して縄文時代と考えられる。



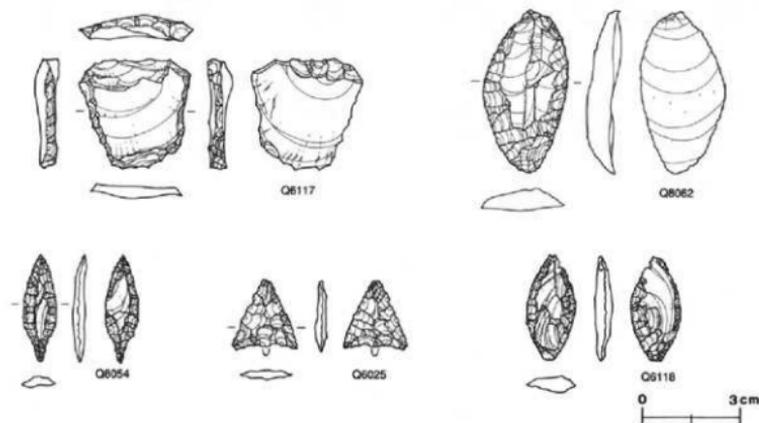
第514図 第9号陥し穴実測図

表9 陥し穴一覧表

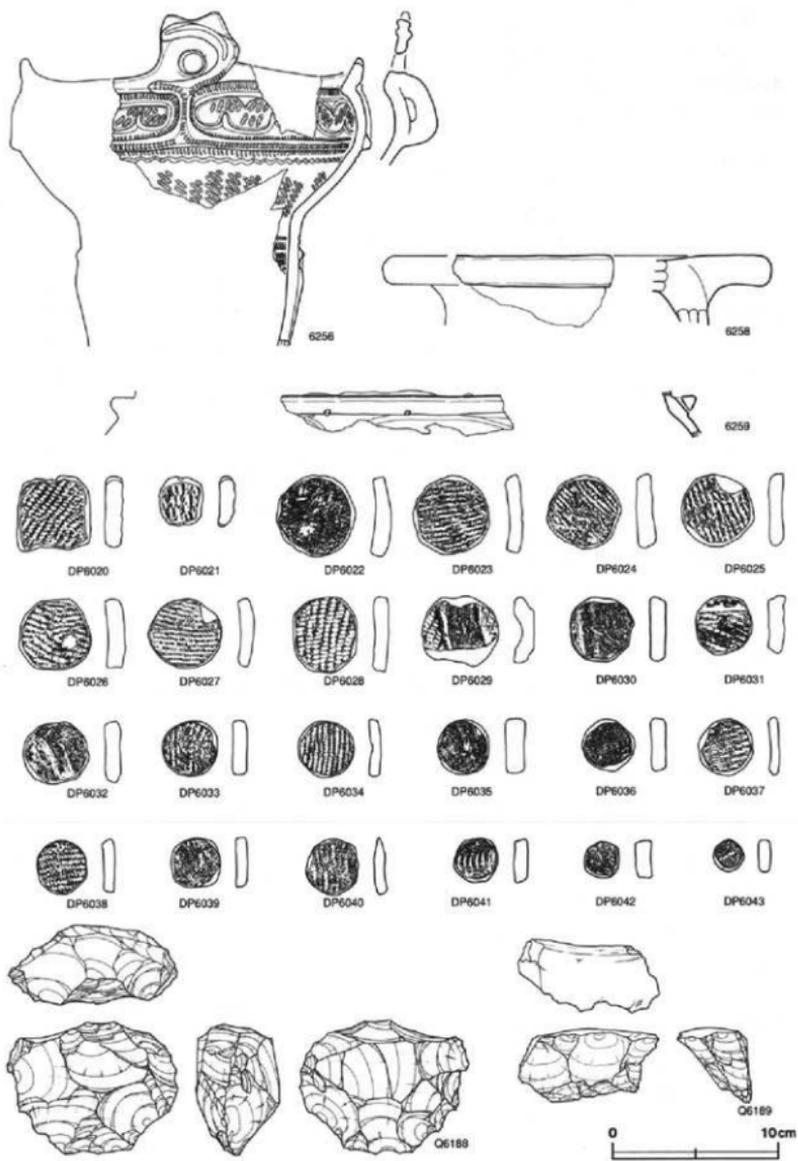
陥し穴番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	ピット	主な出土遺物	発掘番号
				長径(m)×短径(m)	深さ(cm)						
7	B 3 02	N-14°-W	不整形円形	[1.70]×1.24	98	直立	平坦	人為	-	磨製石斧	SK 2003
8	E 4 e1	N-24°-E	不整形円形	2.40×1.30	110	直立	平坦	人為	7		SK20104
9	D 3 e7	N-86°-W	楕円形	1.50×0.98	106	外傾	平坦	人為	-		SK20269

9 遺構外出土遺物 (第515~518図)

表土と他時期の遺構から出土した遺物のうち、旧石器から縄文時代に属し、完形に近いものを抽出して掲載した。Q6117は旧石器時代の石器、Q8062・Q8054・Q6118は旧石器時代終末期から縄文時代草創期にかけての石器である。6256・6258・6259は縄文時代中期の土器、DP6020~DP6043は縄文時代中期の土製品、Q6025・Q6188・Q6189・Q6171・Q6163・Q6181・Q6173・Q6174・Q6176・Q6177・Q6141・Q6160・Q6145は縄文時代の石器である。なお、解説は遺物観察表で示した。



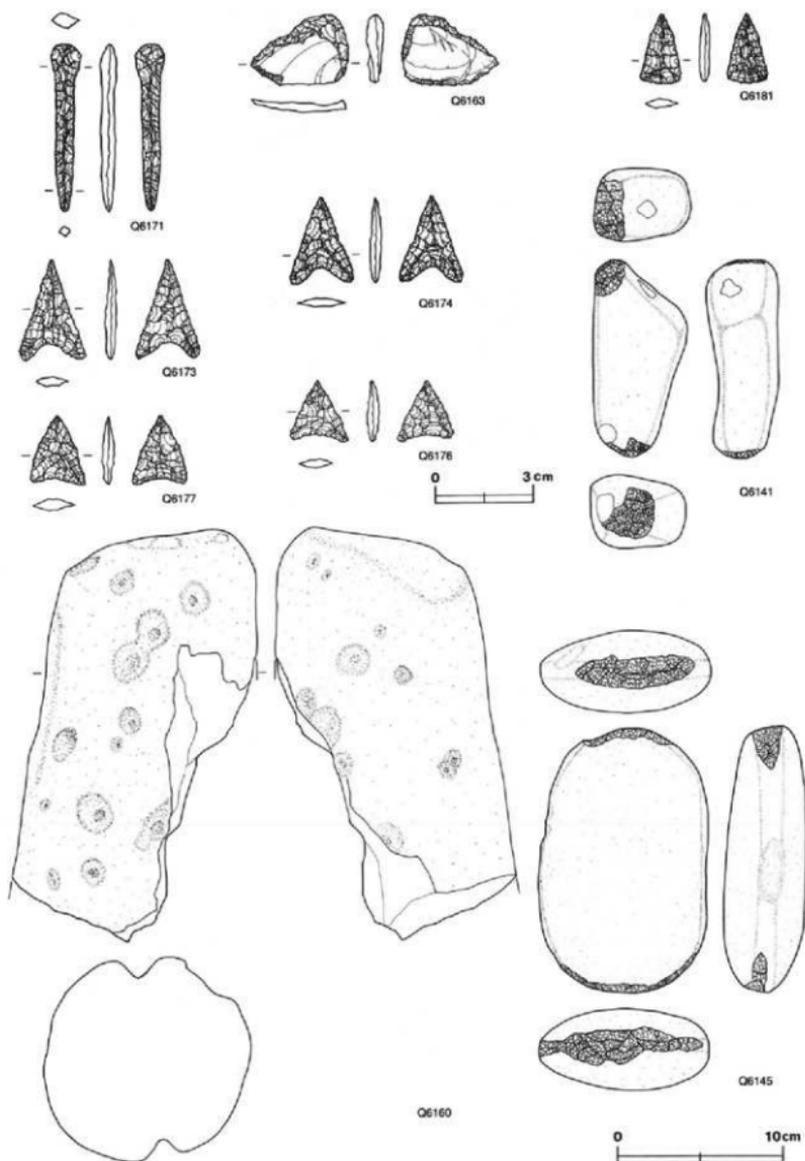
第515図 遺構外出土遺物実測図(1)



第516图 遺構外出土遺物実測図(2)



第517图 遗構外出土遺物実測図(3)



第518图 遺構外出土遺物実測図(4)

番号	器種	寸法				材質	特 徴	出土位置	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q6121	打製石斧	11.6	6.8	2.4	199.5	粘板岩	両面調整。	2区	
Q6126	打製石斧	11.8	4.6	1.3	87.9	安山岩	両面調整。背面及び腹面は区調整。	2区C7区	P.L60
Q6131	打製石斧	13.8	4.2	1.5	140.5	緑泥片岩	割製による両面調整後、全体を磨製。	2区	P.L60
Q6137	磨製石斧	(5.5)	4.1	1.0	(37.7)	緑色変成岩	両面及び基部欠損。刃部両面に同部磨製。	2区	
Q6130	磨製石斧	13.6	4.6	1.9	188.7	粘板岩	割製による両面調整後、全体を磨製。	2区E3区	P.L60
Q6129	磨製石斧	16.7	5.8	2.2	283.3	粘板岩	割製及び磨打による両面調整後、全体を磨製。	2区C3区	P.L60
Q6171	石 錘	5.1	0.9	0.5	1.9	チャート	両面調整。側縁に丁寧な凹溝調整。	2区	P.L62
Q6163	石 錘	2.2	2.9	0.6	3.1	チャート	横長割片素材。両面調整。	2区C2区	
Q6181	石 錘	2.2	1.2	0.3	0.7	チャート	基部は直線的。	2区	
Q6173	石 錘	3.0	2.0	0.3	1.2	チャート	基部中央は大きく湾入。	2区C2区	P.L59
Q6174	石 錘	2.7	1.9	0.5	1.1	泥 紋 岩	基部中央は大きく湾入。	2区D3区	P.L59
Q6177	石 錘	2.1	1.6	0.4	0.9	チャート	基部中央は湾入。	2区C3区	P.L59
Q6176	石 錘	1.9	1.7	0.4	0.8	チャート	基部中央は湾入。	2区D3区	P.L59
Q6141	磨 石	12.0	5.9	4.5	390.1	砂 岩	両面に磨打痕。	2区D3区	P.L62
Q6145	磨 石	16.1	10.2	5.0	1278.7	安山岩	磨石に併用。両縁縁に磨痕。内面に磨打痕。	2区	P.L62
Q6160	石 棒	(25.1)	14.7	12.5	(5024.0)	安山岩	基部欠損。両面磨製。断面円形。	2区E4区	P.L62

第4節 ま と め

宮後遺跡は縄文時代から中・近世にかけての複合遺跡である。平成11年度の調査で検出された縄文時代の遺構は、竪穴住居跡6軒、屋外が3基、土坑1026基、土坑墓238基、土器埋設土坑5基、ピット群1か所、ピット359基、陥し穴3基である。これらの遺構は、前期前葉、中期中葉から後葉、後期中葉の3時期に大別される。その中で、土坑・土坑墓・ピット群・ピット・陥し穴については、出土遺物はないものの遺構の形態や覆土の特徴から縄文時代の遺構と判断したものや時期が特定できなかったものが多く含まれている。「宮後遺跡1」（茨城県教育財団文化財調査報告第188集）の報告では、縄文時代中期中葉の土器の様相と土坑墓から出土した大珠についての検討を行った。今回の報告では前述した3時期の様相について解説を加え、特に遺跡の主体となる中期中葉から中期後葉にかけての時期について、土器の変遷を明らかにした上で集落の変遷についての検討を行っていきたい。

1 縄文時代前期前葉の様相

本時期の遺構は、竪穴住居跡1軒が5区で検出されている。第113号住居跡は、聖柱穴で、床面の中央部に凹床炉を有している。土器は口縁部を梯子状沈線文により文様を描出し、文様の余白部に円形刺突文を充填するもので、口縁部には鋸歯状突起を付加している。この土器は口縁部にキザミを有する細頸帯を施していないことから、後藤喜彦氏が提唱し、谷藤保彦氏が型式内容を整理した二ツ木式土器ではなく、関山I式土器であると考えられる。また、梯子状沈線文の幅が広いこと、瘤状貼付文ではなく、円形刺突文を施していることから、関山I式土器の中でも古段階の様相がうかがわれる。

当遺跡周辺の潤沼前川流域や潤沼川流域には、前期の遺跡が多数分布している。中でも、南小潤沼¹³は当遺跡から南東へ3.6kmの距離で、潤沼川左岸に位置している。平成6年の調査では該期の竪穴住居跡20軒が検出されている。それらを時期別に分けると、二ツ木式期が11軒、関山II式期が9軒で、それぞれは場所を変えて群を成している。特に、二ツ木式期の地点貝塚が6か所が検出されており、潤沼川流域で最も上流に位置する

貝塚と位置付けられる。貝種はヤマトシジミが99%を占め、残りの1%がハマグリ・マガキ・ムラサキガイ・ウネナシヤマガイ・イシマキガイ・カワアイ・カリニナ・アワド類である。尚時期の詳細な検討は今までに行われてはいないが、いずれの時期も数軒単位の小規模集落であったと考えられる。当遺跡の竪穴住居跡も、南小割遺跡例と時期は異なるものの、一時期の様相を示す好例となるであろう。

2 縄文時代中期中葉から中期後葉にかけての様相

(1) 土器の様相

本時期は当遺跡の主体となる時期で、遺構と遺物の大多数は本時期のものである。当遺跡では阿玉台Ⅰa・Ⅰb式期から加曾利EⅣ式期までの縄文中期土器が出ている。ここでは、縄文時代中期における宮後遺跡を復元するための基礎作業として該期の土器様相を明らかにしていきたい。

中期中葉の時間軸は、阿玉台式の編年を基準とし、一括土器と捉えられる共存関係から、同時期の組成を明らかにしていく。縄文地に有節（結節）沈線文を施す土器については、塚本節也氏が指摘するように現段階では型式内容の把握が十分でないことから、七郎内Ⅱ群土器の名称を使用する。また、その概念については、胴部に懸垂する4単位の隆帯間に、沈線で上下対向弧線文やX字状文を施すものも含めて考えている。この二者は、将来的にそれぞれの型式内容や系統を整理した上で分離しなければならぬであろう。

中期後葉の時間軸は、金子貞行氏が『縄文土器辞典』で示した加曾利EⅡ式土器の編年案を基準とする。しかし、金子氏はその後『大山遺跡 第9次』や『戸崎前遺跡』中で、次の二点を改めている。ひとつは、連弧文土器の成立期の様相を検討した結果、従来の加曾利EⅡ式新段階期に連弧文土器が成立していないことが明らかになり、3文様帯系の土器群が東部的な2文様帯系の要素を取り入れてたこと考えたことから、これを加曾利EⅡ式からの変異期と捉えて加曾利EⅡ式古段階期と変更している。ふたつは、連弧文土器の出現期としていた加曾利EⅡ式古段階期は、より新しい要素があるとしてその呼称を加曾利EⅡ式新段階期と改めている。当遺跡が位置する関東地方の東部地域では、2文様帯系が主体となることと、連弧文土器も客体的な存在であることから、連弧文土器を時期の指標として捉えることは有効でないと考えられる。以上のことから、胴部の磨消懸垂文の成立をもって加曾利EⅡ式古段階期とし、呼称についてもほぼ従来どおり使用していく。

時期については、阿玉台Ⅰa・Ⅰb式期から加曾利EⅣ式期までを11期に細分した。

1期（第519回）

阿玉台Ⅰa・Ⅰb式期で、第247号住居跡出土土器を指標とし、第396号土坑出土土器等が本期に属する。本時期は隆帯に沿って単列の角押文（結節沈線文）を施すことを特徴とする阿玉台Ⅰa・Ⅰb式土器に七郎内Ⅱ群土器が伴出する段階である。阿玉台式土器の文様構成は、2文様帯のものと3文様帯のものがある。また、肩状把手を有するもの、器面にヒダ状の丘痕文を施しているものもある。

2期（第520回）

阿玉台Ⅱ式期で、第616号土坑出土土器を指標とし、第24・151・278・358・679・955号土坑出土土器が本期に属する。本時期は阿玉台Ⅱ式土器に七郎内Ⅱ群土器が伴出する段階である。第151号土坑例は阿玉台Ⅱ式土器と七郎内Ⅱ群土器が出土しており、それらが共存する好例である。阿玉台Ⅱ式土器の特徴は、隆帯に沿った複列の角押文（半截竹管による結節平行沈線文）で、器面のヒダ状の丘痕文は本時期でキサミ列に置換されている。七郎内Ⅱ群土器には、双頭の波状口縁が左右非対称で、波底部下に隆帯による区間文を施すもの、胴部に縦位の楕円形区間文を施すもの、胴部に懸垂する隆帯間に沈線による上下対向弧線文やX字状文を施しているものがある。また、波頂部下の口縁部や把手の内面に獣面を表現するものが多い。

3期 (第521図)

阿玉台Ⅲ式期で、第387号土坑出土土器を指標とし、第65・362・575・641号土坑出土土器等が相当する。本期は降帯に沿って爪形文を施す阿玉台Ⅲ式土器が主体で、七郎内Ⅱ群土器と大木8a式土器が客体的に伴出する。第575号土坑例は、器面にキザミ目を巡らしており、阿玉台Ⅱ式土器の特徴が残存しており、古相である。阿玉台Ⅲ式土器には、頸部無文帯を有する3文根帯構成で、波頂部下に降帯によるU字状文やO字状文を有し、縄文を施さないものと、波頂部下に降帯を垂下させ、縄文を施文するもの二者がある。七郎内Ⅱ群土器の割合は前時期と比較して少なくなるが、第362号土坑で良好な一括資料が出土している。七郎内Ⅱ群土器は、口縁部に波頂部直下の把子起点に降帯による区画文を形成している。胴部に懸垂する隆帯間に上下対向弧線文やX字状文を施すことは、阿玉台Ⅱ式から踏襲されている。大木8a式土器は、第387号土坑で良好な伴出関係にある。本例は口唇部直下に爪形文を施していることが大木8a式土器から逸脱しているが、口縁部に横S字状文を施していること、胴部に沈線文を多用していることから、大木8a式土器に分類できる。

4期 (第522図)

阿玉台Ⅳ式期で、第511号土坑出土土器を指標とし、第613・678号土坑出土土器等が相当する。本期は阿玉台Ⅳ式土器に大木8a式土器が伴出する段階である。阿玉台Ⅳ式土器の降帯に沿って施される文様には、沈線文を施すものと、半截竹管による平行沈線文がある。また、胴部の隆帯については、4単位で垂下するものと、環状の突起を有するものがある。大木8a式土器は出土数が増加し、深鉢の器形が多様となる。3のような胴部中に最大径がある樽形のものに伴出するものも本時期からである。また、本時期には、第1859号土坑出土土器のように勝坂Ⅲ式土器が微少的に伴出する。

5期 (第523・524図)

加曾利EⅠ式古段階期で、第637号土坑出土土器を指標とし、第601・610・642・647・1511号土坑出土土器等が相当する。本期は加曾利EⅠ式土器が成立し、伴出する土器群が減少する段階である。伴出する土器群としては、中鉢式土器と大木8a式土器が微少的に存在し、勝坂Ⅲ式土器は組成からなくなる。加曾利EⅠ式土器の文様には、細い隆帯と背に沈線を有する隆帯があり、降帯には沈線が沿うことはない。中鉢式土器は第642号土坑から出土しており、立体的な楕円区画文を連続して巡らすものとキザミを有する隆帯を施すものがある。また、第523図2のように地文や文様の手法に阿玉台Ⅳ式土器の特徴を有する土器も伴出している。

6期 (第525図)

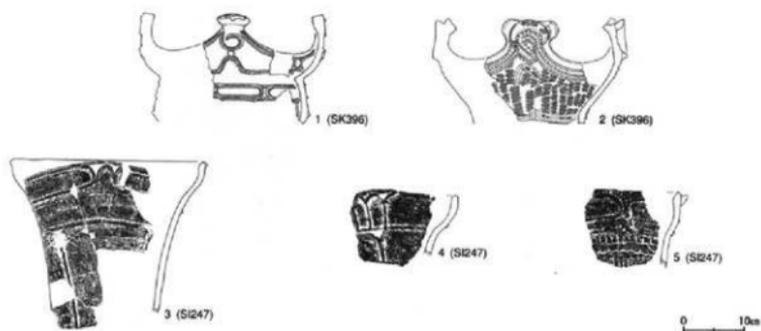
加曾利EⅠ式中段階期で、第167号住居跡・第1168号土坑出土土器を指標とする。本期は前段階の影響がなくなり、加曾利EⅠ式土器が独自に展開する段階である。本期の加曾利EⅠ式土器の特徴は、沈線が沿う隆帯により文様を描出すること、波頂部や突起には沈線が沿う隆帯により渦巻文を施していることである。

7期 (第526図)

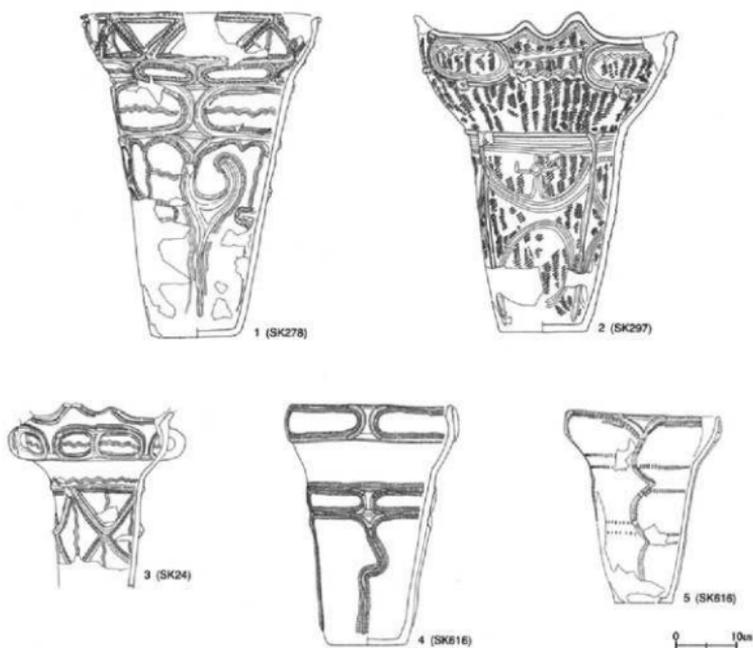
加曾利EⅠ式新段階期で、第145・1959号土坑出土土器を指標とする。本期は加曾利EⅠ式土器が齊一化する段階である。本期の加曾利EⅠ式土器の特徴は、沈線が沿う2本一組の隆帯により文様を描出すること、渦巻文が大形化することで、胴部に磨消懸垂文は成立していない。

8期 (第527図)

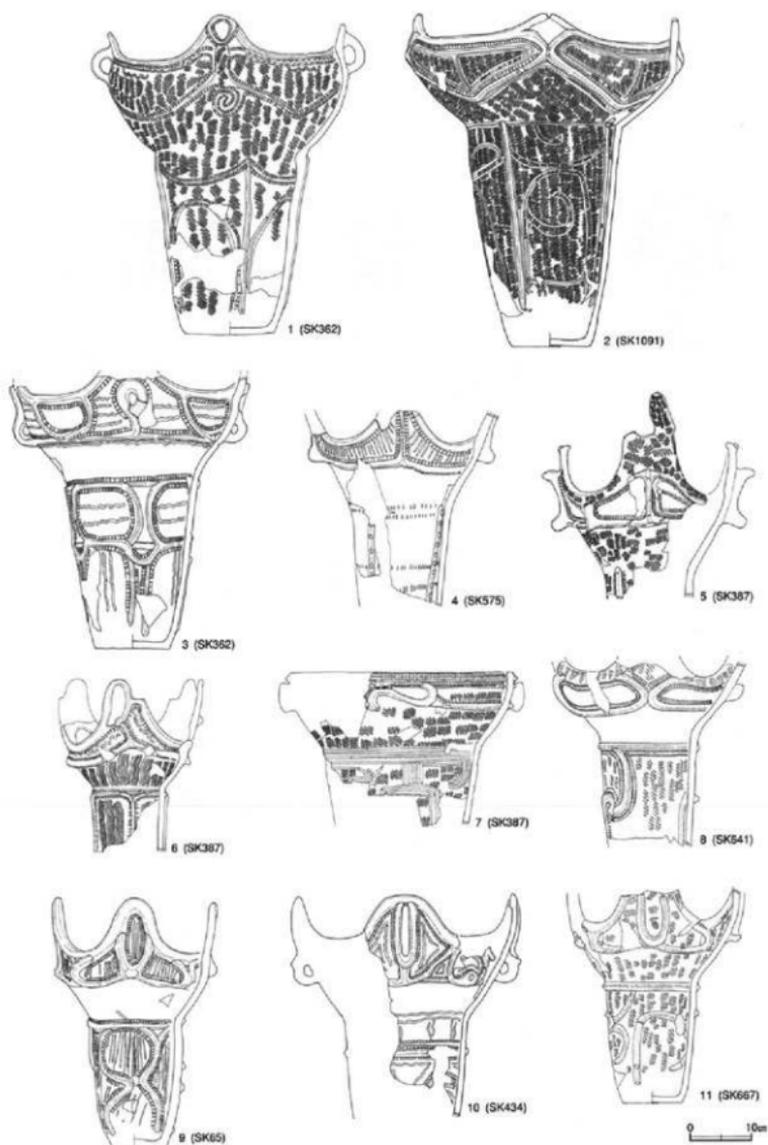
加曾利EⅡ式期で、第1906・1913号土坑出土土器を指標とする。本期は胴部に磨消懸垂文が成立する段階である。口縁部は降帯幅が前時期と比べ広くなり、区画化する。また、これに西関東から中部地方にかけて分布する曾利Ⅱ式土器が伴出する。



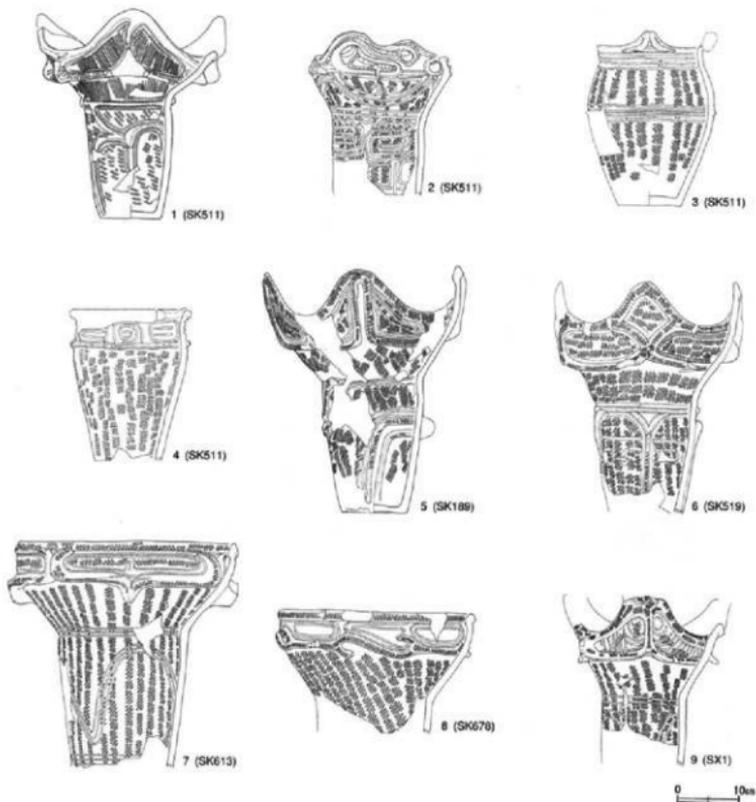
第519図 1期（阿玉台Ⅰa・Ⅰb式期）の土器



第520図 2期（阿玉台Ⅱ式期）の土器



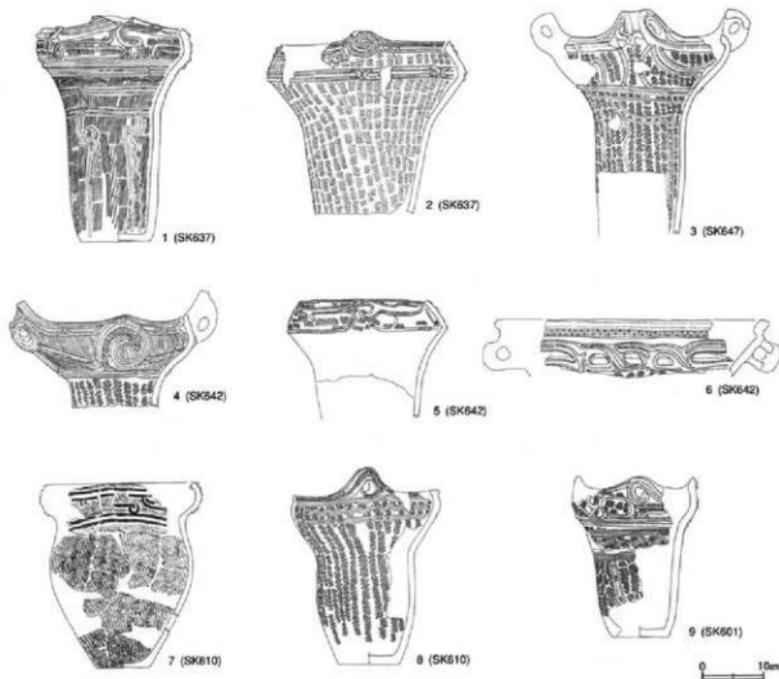
第521図 3期(阿玉台Ⅲ式期)の土器



第522図 4期（阿玉台Ⅳ式期）の土器



第523図 5期（加曾利 E I 式古段階期）の土器（1）



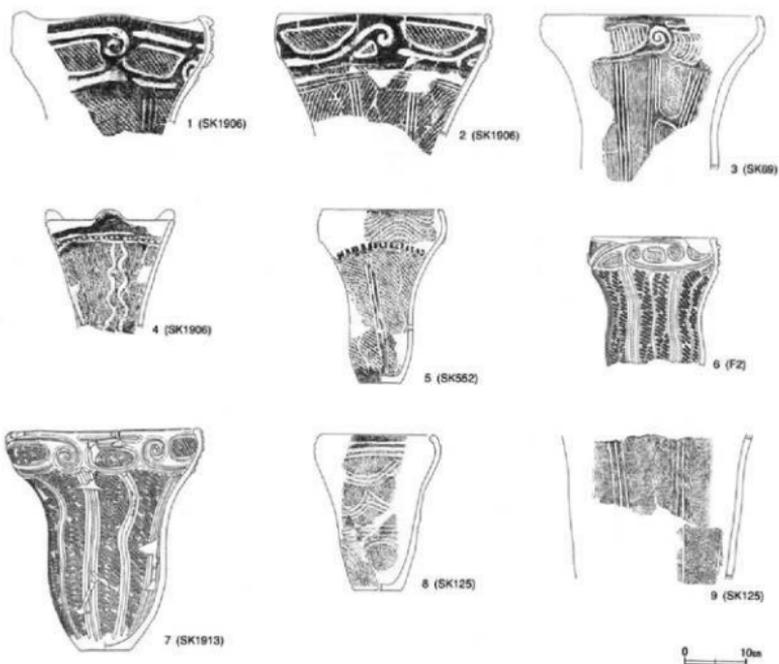
第524図 5期（加曾利 E I 式古段階期）の土器（2）



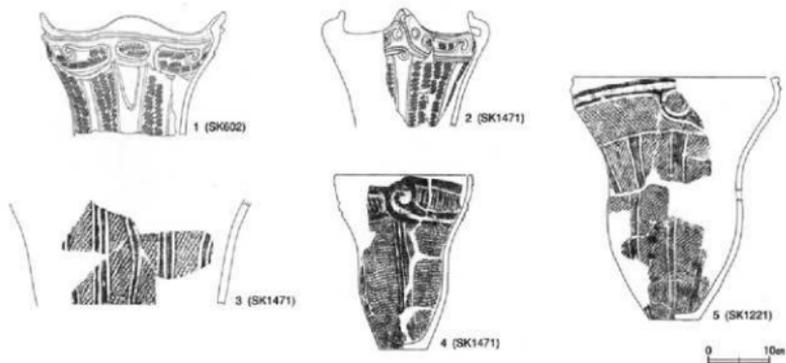
第525図 6期（加曾利 E I 式中段階期）の土器



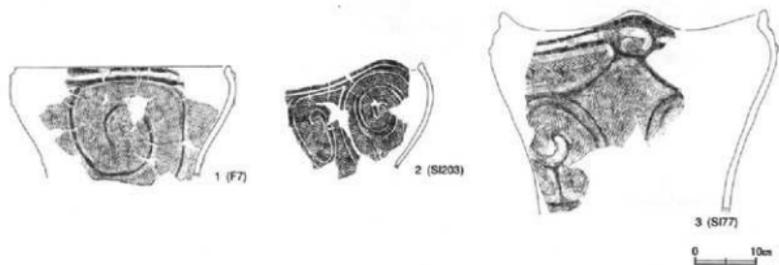
第526図 7期（加曾利E I式新段階期）の土器



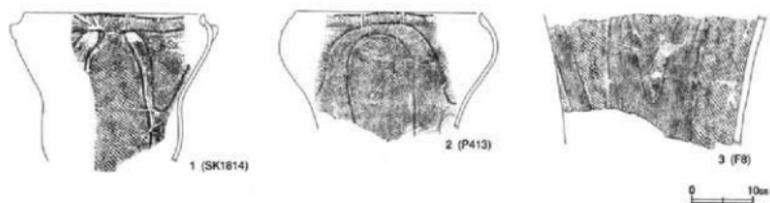
第527図 8期（加曾利E II式期）の土器



第528図 9期（加曾利EⅢ式古段階期）の土器



第529図 10期（加曾利EⅢ式新段階期）の土器



第530図 11期（加曾利EⅣ式期）の土器

9期（第528図）

加曾利EⅢ式古段階期で、第154号住居跡・第602号土坑出土土器を指標とする。本期は副部の磨消型垂文が幅広となり、逆J字状文となる段階である。17線部は沈線に沿う隆帯により渦巻文と区画文で構成されている。文様は区画文となり、独立するものもある。

10期（第529図）

加曾利EⅢ式新段階期で、第77・203号住居跡出土土器を指標とする。本期は口縁部文様帯と胴部文様帯が一体化し、微隆帯による大振りの渦巻文が器面全体に施される段階である。また、これに西関東的な沈線により文様を描出する土器が伴出する。

11期（第530図）

加曾利EⅣ式期で、第142号住居跡・第1814号土坑出土土器を指標とする。本期は微隆帯により描出された文様が齊一化される段階である。17線部には幅狭の無文帯が形成され、文様は1帯構成で、口縁部の区画線と連結したU字状文間に逆J字状文が迫りあがる構成のものが主体となる。

（2）集落の変遷

集落を構成する要素としては、堅穴住居跡、屋外炉、土坑墓、ピット群、土器埋設土坑、土坑等があげられる。ここでは、特に堅穴住居跡に焦点をあて、それに付随する遺構群を明らかにし、各時期ごとの構成を復元していくことにする。資料としては時期が明確なものだけを扱い、年代幅があったり、時期不明なものは除外した。ただし、遺構が密集して重複しているため、古い遺構ほど新しい遺構に掘り込まれて残存していない可能性があるが、この点は考慮に入れていない。

1期（第531図）

阿玉台Ⅰa・Ⅰb式期は、中期集落の開始期である。第247号住居跡1軒だけが検出されている。堅穴住居跡の特徴は、平面形が円形で、炉はなく、堅溝を有してはいるものの、明確な柱穴と考えられるピットがないことである。類例としては、土浦市東原遺跡の第2号住居跡がある。本期の住居は、両遺跡の例から1軒が単位として形成されていたことがうかがわれる。また、本期の堅穴住居跡は茨城県内でも検出例が少なく、両遺跡以外に前田村遺跡第350・365号住居跡と古峰B遺跡第1号住居跡があるのみである。

2期（第532図）

阿玉台Ⅱ式期は、環状集落の確立期である。堅穴住居跡は第40・51号住居跡が、土坑は第151・278・297・358・558・616・955・1445号土坑等が検出されている。住居跡の構成は不明であるが、土坑の分布から環状集落であることがうかがわれる。堅穴住居跡は平面形が円形のものと同方形のものがあり、炉もあるものもないものがある。土坑の断面形はフラスコ状で、底部が強くオーバーハングしている。

3期（第533図）

阿玉台Ⅲ式期は、2期に引き続き遺構数は多く、環状集落が拡大する時期である。堅穴住居跡は第151・199号住居跡が、土坑は第65・362・387・1512号土坑等が検出されている。堅穴住居跡は平面形が円形のものと同方形のものがある。第199号住居跡は炉がなく、床が二段掘りとなり、その位置も住居跡の外周域にある。第151号住居跡の炉は土器埋設炉で、土器内部には炉床面はなく、地床部に炉床面がある。

4期（第534図）

阿玉台Ⅳ式期は、遺構数が減少し、確実に本時期のものとして位置付けられる堅穴住居跡はなく、集落が一時的に衰退する時期である。土坑は第511・519・1862号土坑等が検出されている。

5期 (第535図)

加曾利EⅠ式古段階期は、遺構数が再び増加する時期である。竪穴住居跡は第28・236号住居跡が、土坑は第601・610・637・642・1161・1218・1641号土坑等が検出されている。第236号住居跡は平面形が隅丸長方形で、炉は土器埋設炉である。炉床面は土器内部にはなく、土器の周囲にある。竪穴住居跡の検出数は2軒であるが、遺構数が最も多い時期であることから、本期は環状集落の繁栄期と考えられる。

6期 (第536図)

加曾利EⅠ式中段階期は、前時期より遺構数が減少する時期である。竪穴住居跡は第7・167・175号住居跡、土坑は第1300・1449号土坑等が検出されている。竪穴住居跡の炉は地床炉と石囲炉で、石囲炉は本時期から出現する。集落の形態は、前時期と同様に環状集落と考えられる。

7期 (第537図)

加曾利EⅠ式新段階期は、前時期より遺構数がさらに減少する時期である。竪穴住居跡は第19・217号住居跡が、土坑は第1559号土坑等が検出されている。竪穴住居跡の炉はいずれも土器埋設炉で、土器の周囲に炉床面がある。集落の形態は、前時期と同様に環状集落と考えられる。

8期 (第538図)

加曾利EⅡ式期は、前時期より遺構数が再び増加し、環状集落の中心部には墓域が形成される時期である。竪穴住居跡は第10・152・165・181号住居跡が、土坑は第552・1106・1353・1473・1612・1906号土坑等が検出されている。土坑墓は第55・70・92号土坑墓等が本時期に属する可能性がある。竪穴住居跡の炉は地床炉と石囲炉で、土坑とともに西部に集中している。土坑墓には第72・92号土坑墓のように横溝があるものと、第55号土坑墓のように横溝がないものがある。横溝を有する第32号土坑墓は本時期の第152号住居跡の炉を掘り込んでいることから、横溝を有する土坑墓は本時期より古い時期のものでないことが明らかである。また、第55・92号土坑墓の北壁寄りの底面からは、石鏝が1点ずつ出土しており、石鏝が土坑墓に副葬された好例である。集落の形態は環状集落であるが、第181号住居跡のように住居跡群の外周域に分布する住居跡もある。

9期 (第539図)

加曾利EⅢ式古段階期は、前時期より遺構数がわずかに減少する時期である。竪穴住居跡は第138・145・154・170・181・212号住居跡、土坑は第1471・1467号土坑が、土坑墓は第62・113号土坑墓等が検出されている。竪穴住居跡の炉は地床炉と石囲炉と土器埋設炉である。地床炉と石囲炉は床を掘りくぼめており、土器埋設炉は土器内部に炉床面を持つようになる。石囲炉の中には第154号住居跡のように石棒を炉縁に樹立させる形態を取るものもある。長野県内の類例を集成した神村達氏によれば、長野県内には12遺跡15例があり、石棒は住居建造時に樹立させていること等を指摘している¹⁰⁰。土坑墓については、墓域のほぼ中央に位置し、威信財ともいえる琥珀製の垂飾2点と翡翠製の垂飾1点が出土した第62号土坑墓が目目される。

10期 (第540図)

加曾利EⅢ式新段階期は、確認された住居跡数が増加する時期である。竪穴住居跡は第20・48・77・119・140・182・203・224号住居跡等が検出されている。竪穴住居跡の炉は地床炉と土器埋設炉で、石囲炉はなくなる。土器埋設炉は前時期と同様に土器内部に炉床面がある。土坑については、住居跡数に対して激減する。集落の形態は従来の環状集落は崩壊し、その南西側に別の住居跡群が環状に展開するようになる。

11期 (第541図)

加曾利EⅣ式期は、前時期より確認された住居跡数がわずかに増加する時期である。竪穴住居跡は第70・76・78・108・142・184・194・196・206号住居跡等が検出されている。竪穴住居跡の炉は地床炉だけで、土器埋設



第531図 1期(阿玉台I a · I b式期)の遺構分布図



第532図 2期（阿玉台Ⅱ式期）の遺構分布図



第533図 3期（阿玉台Ⅲ式期）の遺構分布図



第534図 4期（阿玉台Ⅳ式期）の遺構分布図



第535図 5期（加曾利E I式古段階期）の遺構分布図



第536図 6期（加曾利E I式中段階期）の遺構分布図



第537図 7期（加曾利 E I 式新段階期）の遺構分布図



第538図 8期（加曾利 E II 式期）の遺構分布図



第539図 9期（加曾利EⅢ式古段階期）の遺構分布図



第540図 10期（加曾利EⅢ式新段階期）の遺構分布図



第541図 11期（加曾利EⅣ式期）の遺構分布図

はなくなる。迄床炉は9期以降溢りくほめているものが多い。現状集落はなくなり、住居跡は西部に集中している。集落は本期で終焉を迎え、後期中葉まで活動の痕跡は途絶えることになる。

3 縄文時代後期中葉の様相

本時期の遺構は、2区北部で土器埋設土坑1基が検出されている。土器は加曾利B式上層の粗製深鉢で、逆位の状態で埋設されていた。土器埋設土坑については、茨城県内では廻り地A遺跡¹¹⁾で25基が、小場遺跡¹²⁾で11基が検出されており、時期は中期後葉から後期中葉までのものである。特に、小場遺跡SKI66は加曾利BⅡ式期で、鉢が逆位に埋設されており、本例の特徴と類似している。正位や横位の状態で埋設される土器埋設遺構の多くは乳幼児用の土器棺墓と考えられているが、本例のような逆位の状態で埋設されている土器埋設土坑については別の機能が考えられ、今後の課題となろう。

注

- 1) 篠達喜彦「千葉県東葛飾郡二ツ木第11塚」『日本考古学年報』3 1955年
- 2) 谷藤保彦「二ツ木式土器」『群馬の考古学(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団創立十周年記念論文集(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1988年
- 3) 中村敏治・江崎良夫「茨城中央工業団地造成工事地内埋蔵文化財調査報告書 東小絹遺跡・栲貝盆遺跡・現塚遺跡、後原遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第129集 茨城県教育財団 1998年
- 4) 塚本節也「茨城県北部域に於ける縄文時代中期中葉の土器の一様相」『領域の研究』阿久津久先生還暦記念事業実行委員会 2003年
脱稿後、第396号土坑出土土器は阿玉台Ⅰa式期との指摘をいただいた。ここで追加訂正したい。また、1期については、阿玉台Ⅰb式期を阿玉台Ⅰa・Ⅰb式期と訂正したことを付記しておく。
- 5) 塚本節也「縄文中期土器について」『浮法寺遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第196集 栃木県教育委員会・栃木県埋蔵文化財事業団 1997年
- 6) 金子直行「加曾利B式土器」『日本土器辞典』雄山閣 1996年
- 7) 笠口 満也「前谷遺跡群 東原観音塚」田村・神宿土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第4集 上津山教育委員会 1998年
- 8) 吹野吉美夫・宮崎博士・柴田博之「伊豆・谷和原工業団地特定区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書4 朝田村遺跡G・H・I区」『茨城県教育財団文化財調査報告』第146集 茨城県教育財団 1999年
- 9) 平松 孝「北関東自動車道(友部~水戸)建設工事内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ 古峰A遺跡・古峰B遺跡・高土台塚跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第166集 茨城県教育財団 2000年
- 10) 神村 透「折鉢石押樹立位置について」『千帆の考古学 大川清先生古稀記念論文集』雄山閣 1995年
- 11) 瓦次 隆・板井二郎「竜ヶ崎ニュータウン内埋蔵文化財調査報告書7 廻り地A遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』XV 茨城県教育財団 1982年
- 12) 沼田文夫「常磐自動車道岡部埋蔵文化財調査報告書9 小場遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第35集 茨城県教育財団 1986年

写 真 图 版



遺跡全景



遺跡近景



第138号住居跡
完掘状況



第140号住居跡
遺物出土状況

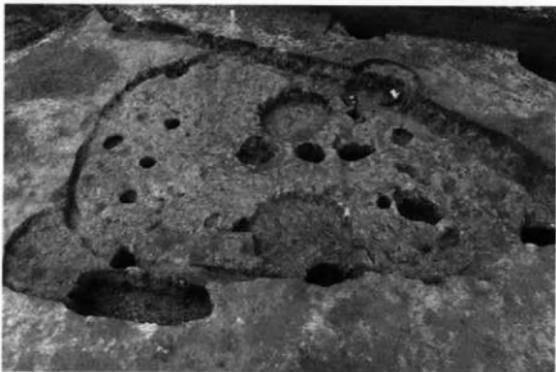


第141号住居跡
完掘状況

第141号住居跡
遺物出土状況



第142号住居跡
完掘状況



第145号住居跡
完掘状況





第149号住居跡
炉完掘状況



第151号住居跡
炉完掘状況



第154号住居跡
遺物出土状況

第154号住居跡
遺物出土状況



第154号住居跡
石棒出土状況



第156号住居跡
完掘状況

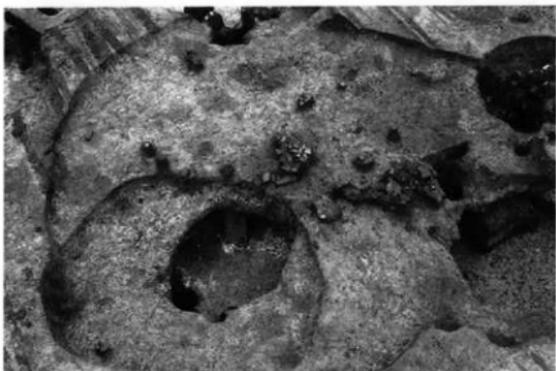




第165号住居跡
完掘状況



第167・169号住居跡
完掘状況

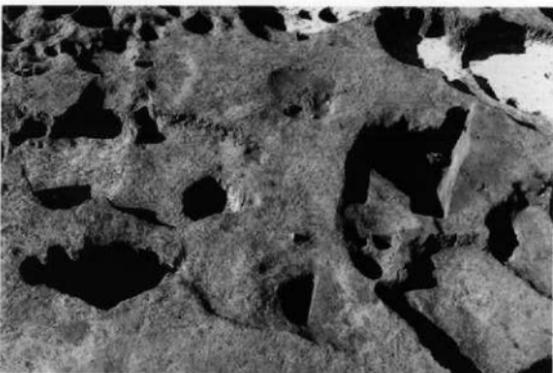


第167・169号住居跡
遺物出土状況

第167号住居跡
炉完掘狀況

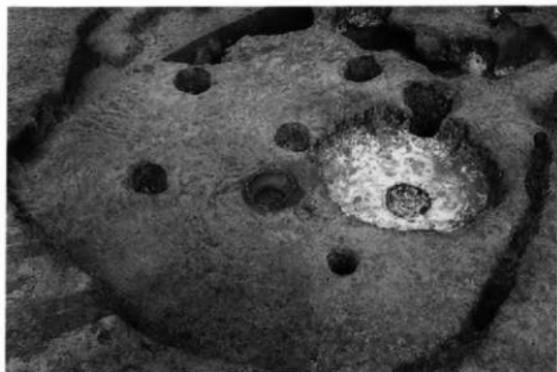


第170号住居跡
完掘狀況



第170号住居跡
炉完掘狀況





第174号住居跡
完掘状況

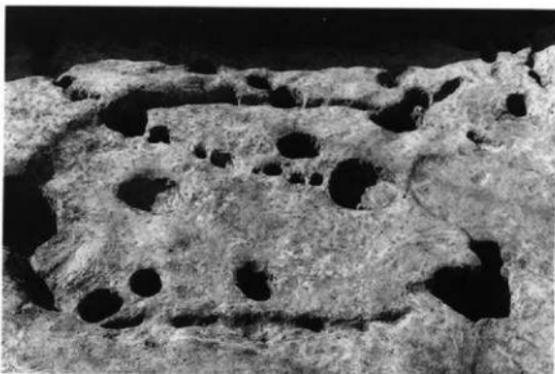


第174号住居跡
完掘状況

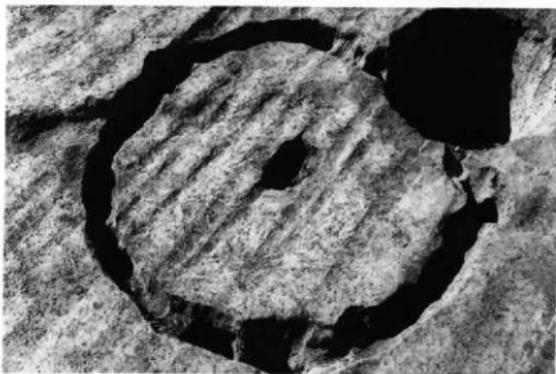


第181号住居跡
遺物出土状況

第184・210号住居跡
完掘状況



第196号住居跡
完掘状況

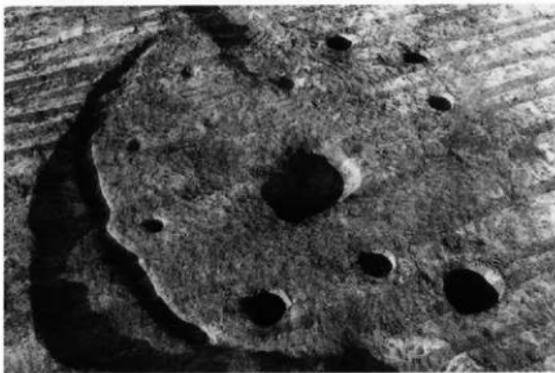


第199号住居跡
完掘状況

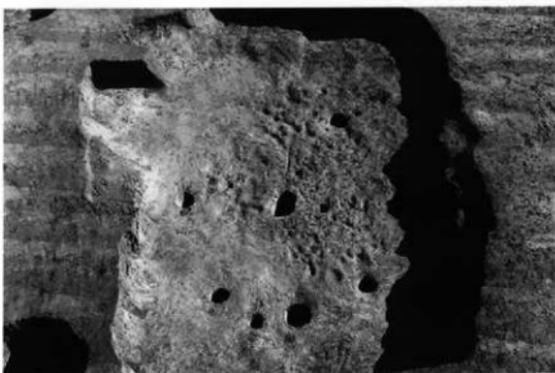




第199号住居跡
遺物出土状況



第206号住居跡
完掘状況



第209号住居跡
完掘状況



第212号住居跡
完掘状況



第212号住居跡
炉完掘状況



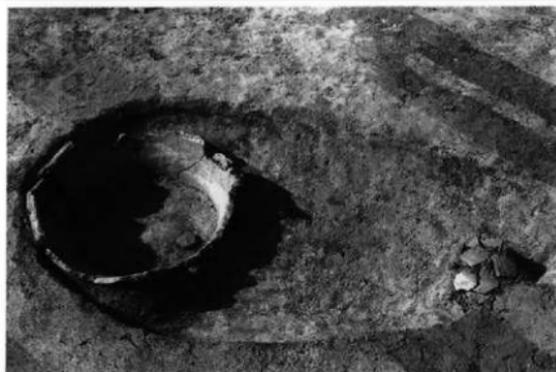
第214号住居跡
完掘状況



第217号住居跡
炉周辺遺物出土状況

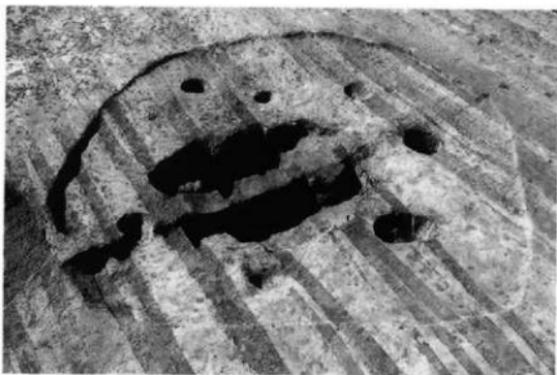


第217号住居跡
土器埋設ビット
遺物出土状況

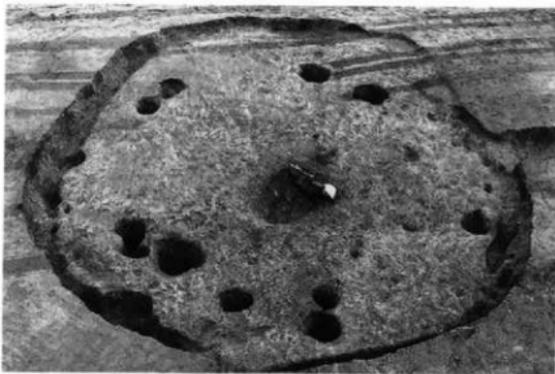


第219号住居跡
炉完掘状況

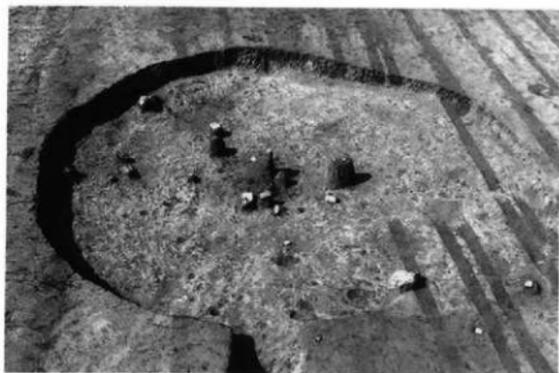
第222号住居跡
完掘狀況

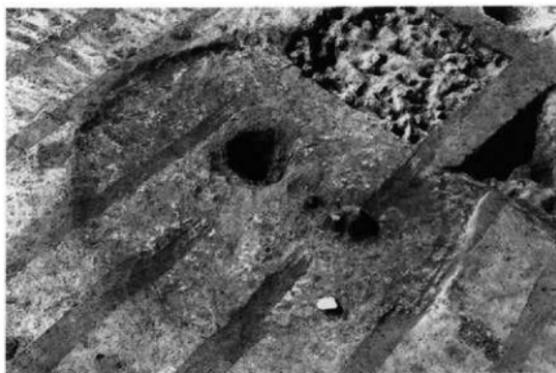


第224号住居跡
完掘狀況

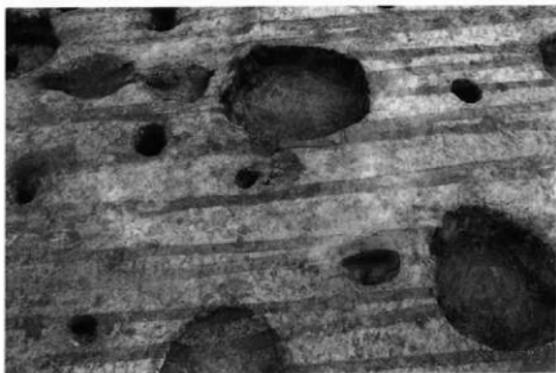


第224号住居跡
遺物出土狀況

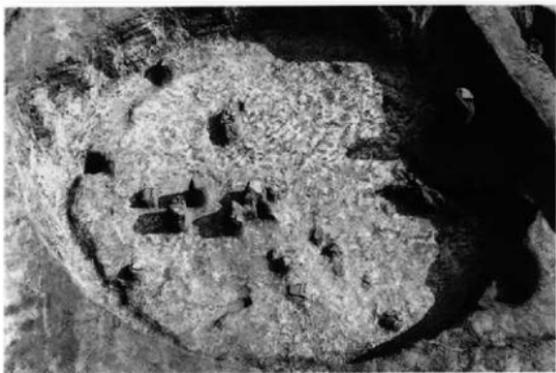




第235号住居跡
遺物出土状況



第236号住居跡
完掘状況



第247号住居跡
遺物出土状況

第10号屋外炉
遺物出土状況



第1004号土坑
遺物出土状況



第1009号土坑
P1遺物出土状況





第1034号土坑
遗物出土状况



第1091号土坑
遗物出土状况



第1160号土坑
遗物出土状况

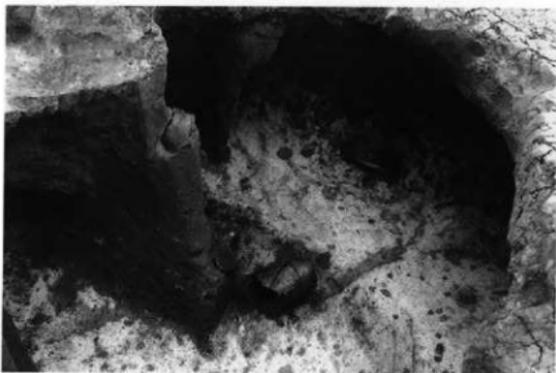
第1161号土坑
遺物出土状況



第1161号土坑
遺物出土状況



第1166号土坑
遺物出土状況





第1169号土坑
遺物出土狀況



第1183号土坑
遺物出土狀況



第1190号土坑
遺物出土狀況

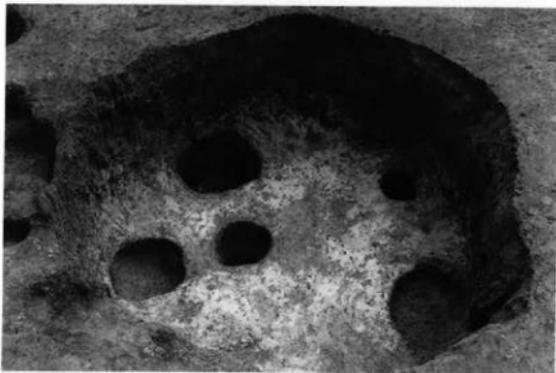
第1200号土坑
遺物出土狀況



第1229号土坑
遺物出土狀況



第1244号土坑
完掘狀況





第1244号土坑
遺物出土状況



第1246号土坑
遺物出土状況



第1250号土坑
遺物出土状況

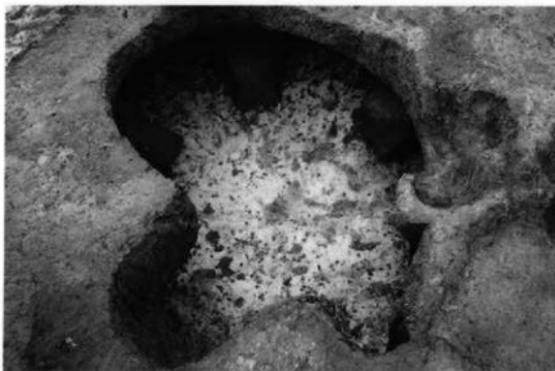
第1258号土坑
遺物出土狀況

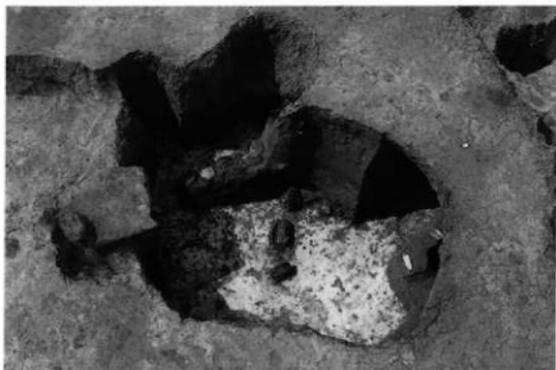


第1273号土坑
遺物出土狀況



第1300号土坑
完掘狀況





第1300号土坑
遺物出土狀況



第1300号土坑
遺物出土狀況



第1309号土坑
遺物出土狀況

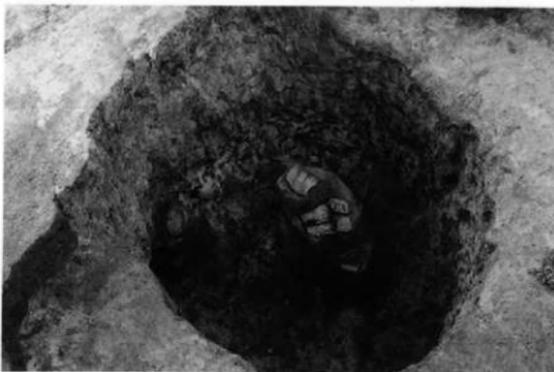
第1332号土坑
遺物出土狀況

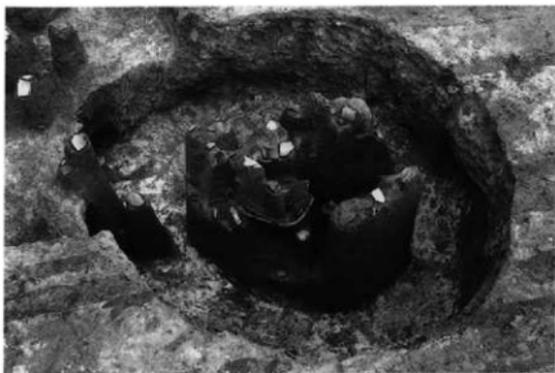


第1352・1353号土坑
遺物出土狀況



第1379号土坑
遺物出土狀況





第1384号土坑
遺物出土狀況



第1449号土坑
遺物出土狀況



第1439号土坑
遺物出土狀況

第1449号土坑
遺物出土状況



第1455号土坑
遺物出土状況



第1476号土坑
P3遺物出土状況





第1495号土坑
完掘状况



第1511-1512号土坑
遗物出土状况



第1511号土坑
遗物出土状况

第1539号土坑
遺物出土狀況



第1541号土坑
遺物出土狀況

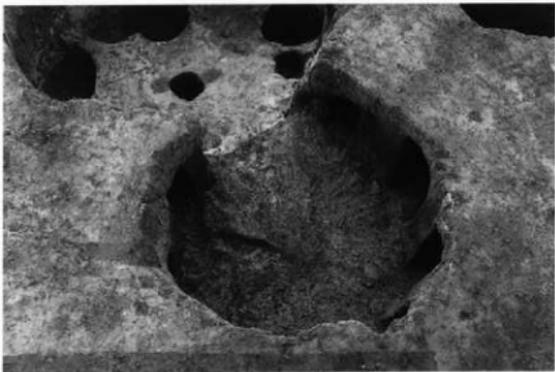


第1559号土坑
遺物出土狀況





第1614号土坑
遺物出土狀況



第1627号土坑
完掘狀況



第1641号土坑
遺物出土狀況

第1658号土坑
遗物出土状况



第1682号土坑
遗物出土状况



第1685号土坑
遗物出土状况

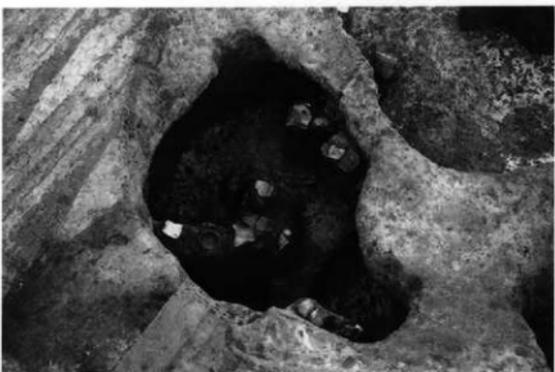




第1761号土坑
遺物出土状況



第1772号土坑
遺物出土状況



第1830号土坑
遺物出土状況

第1854号土坑
遺物出土状況



第1855号土坑
遺物出土状況



第1859号土坑
遺物出土状況





第1889号土坑
遺物出土狀況



第1892号土坑
遺物出土狀況



第1907号土坑
遺物出土狀況

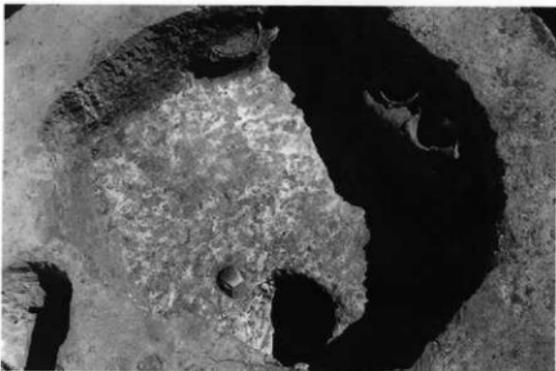
第1908号土坑
遺物出土狀況



第1913号土坑
遺物出土狀況



第1924号土坑
遺物出土狀況





第1954号土坑
遺物出土狀況



第1955号土坑
遺物出土狀況

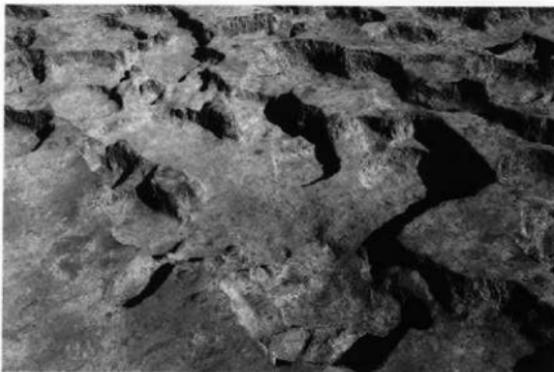


第1994号土坑
遺物出土狀況

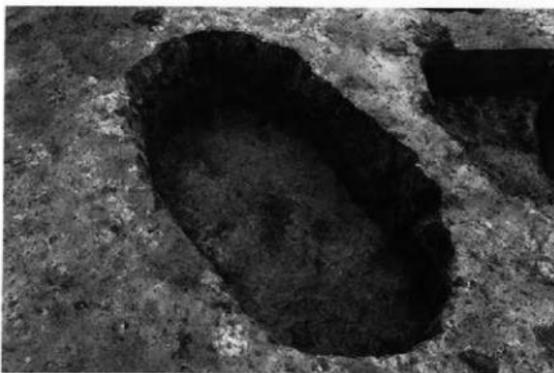
第2011号土坑
遺物出土狀況



第97~174号土坑墓
完掘狀況



第55号土坑墓
完掘狀況





第91~93号土坑墓
遺物出土状況



第192・193号土坑墓
完掘状況



第1号土器埋設土坑
遺物出土状況

第3号土器埋設土坑
遺物出土状況



第1号ビット群
完掘状況



第8号陥し穴
完掘状況

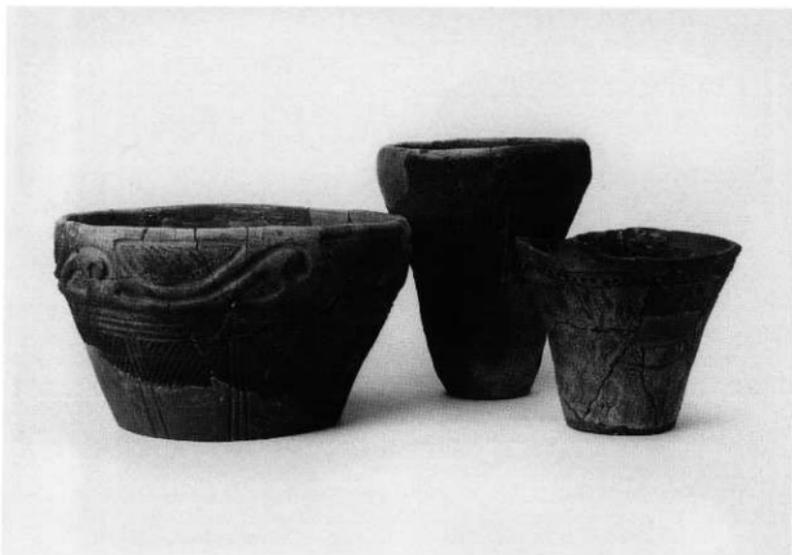




第1160号土坑出土土器



第1687号土坑出土土器



第1906号土坑出土土器



第1994号土坑出土土器





第167号住居跡，第955・960・975・1003号土坑出土土器





SK1079-4080



SK1161-5033



SK1167-5043



SK1081-4081



SK112-5018



SK1167-5042



SK1115-5013

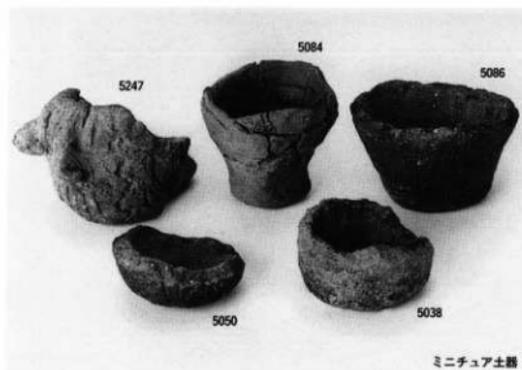


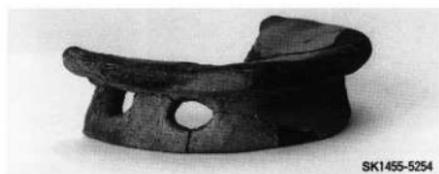
SK1160-5029











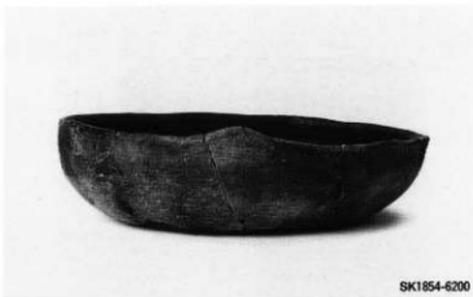


















M3-8069



M5-8125



SK1944-8100



SK1941-8095



P704-5502

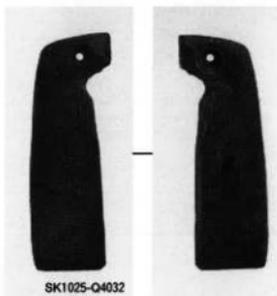


SK1994-8115

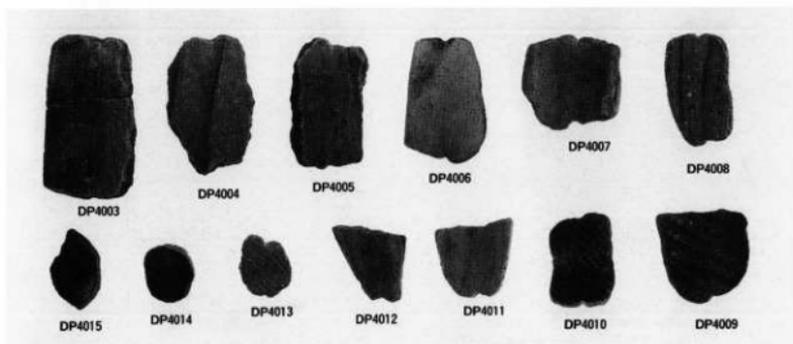


M1-8123

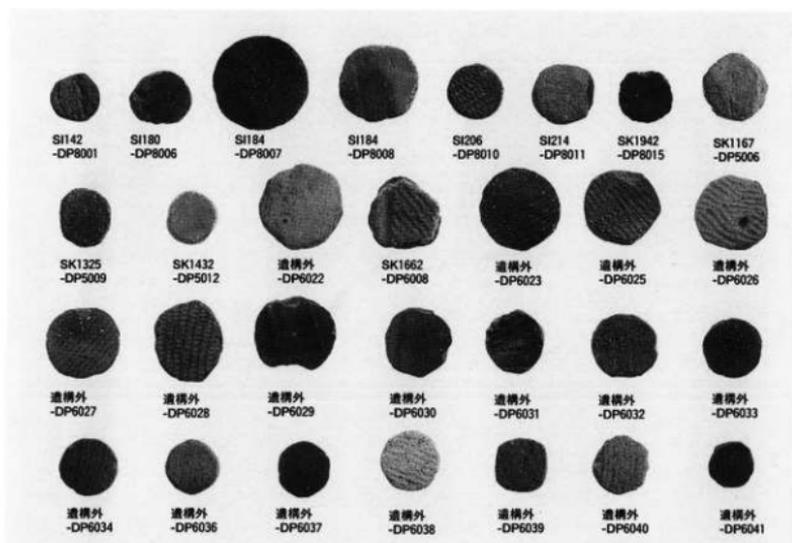
第1941・1944・1994号土坑，第1・3・5号土器埋設土坑，第165号ビット出土土器



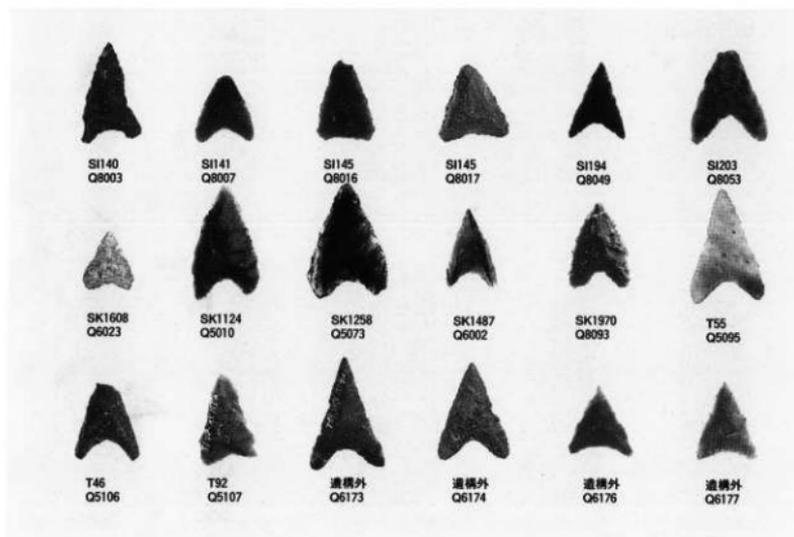
装身具 (垂飾・耳飾・块状耳飾)



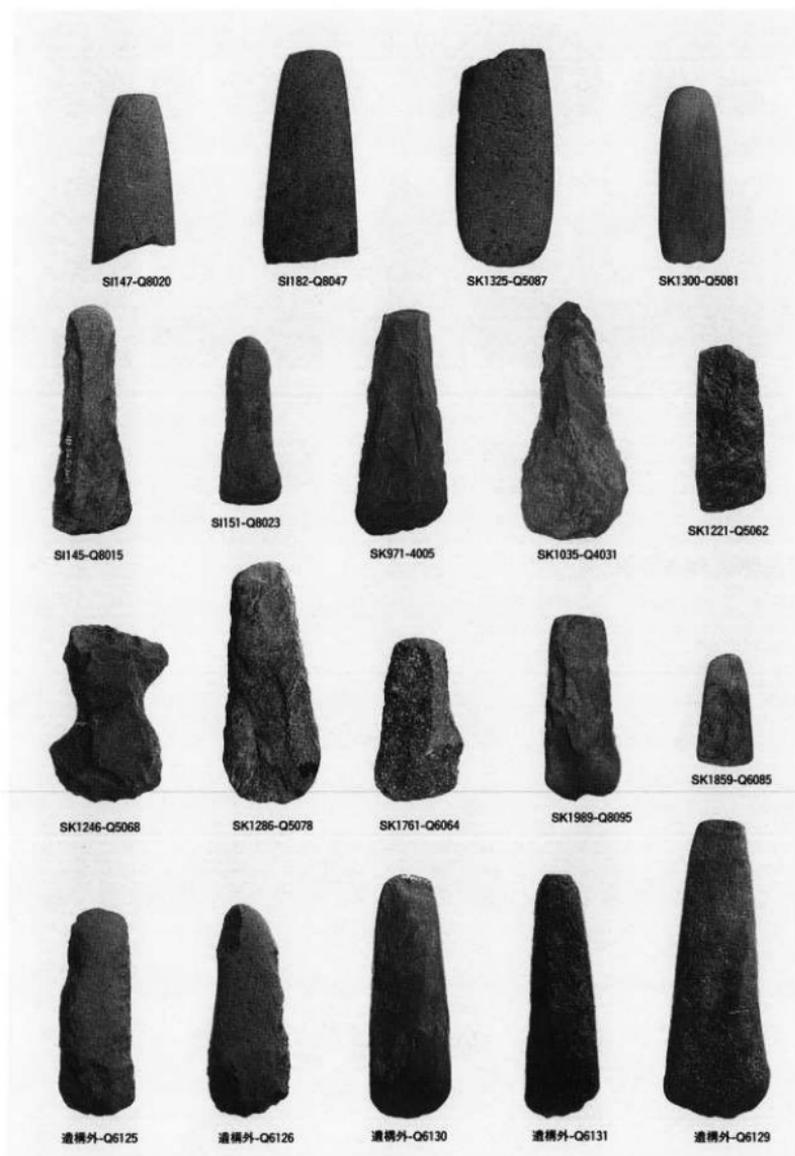
第983号土坑出土土製品 (土器片鏢)



出土土製品 (土器片円盤)

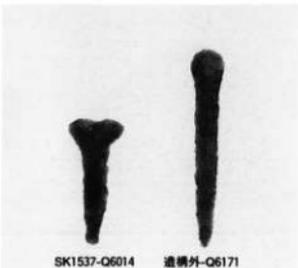


出土石器 (石鏃)



出土石器（打製石斧・磨製石斧）





出土石器・石製品（磨石・敲石・石棒・削器・尖頭器・石錐）

茨城県教育財団文化財調査報告第240集

宮 後 遺 跡 2

やさしさのまち「桜の郷」整備事業
に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅲ

下 巻

平成17(2005)年3月22日 印刷
平成17(2005)年3月25日 発行

発行 財団法人 茨城県教育財団
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL 029-225-6587

印刷 株式会社 イネブ
〒305-0005 茨城県つくば市大久保2丁目11-20
TEL 029-851-2515



- 凡例
 F … 屋外炉
 T … 土坑墓
 M … 土器埋設土坑
 TP … 陥し穴

付図「茨城県教育財団文化財調査報告」第240集
 宮後遺跡 2区縄文時代遺構全体図

0 20m